

平成29年度

入学者選抜要項

平成28年7月



変化する、そして進化する。

大分大学

目 次

	ページ
理工学部（仮称）の設置及び経済学部における 事業共創学科（仮称）の設置について	2
アドミッション・ポリシー	9
入学者選抜実施日程	24
募集人員	25
一般入試入学者選抜方法等	26
①出願資格	26
②志願学部・学科等	26
③平成 29 年度入学者選抜の実施教科・科目等及び配点	27
◎大学入試センター試験・個別学力検査，その他の注意事項	36
推薦入試募集人員	42
推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）	43
（経済学部（改組予定），医学部， 理工学部（設置予定），福祉健康科学部）	
推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）	48
（教育学部）	
アドミッション・オフィス入試（AO入試）	51
帰国子女入試	56
社会人入試	57
私費外国人留学生入試	59
障がいのある者等の事前相談	61
熊本地震により被災した者， 又は熊本地震により転学等をした者の事前相談	61
東日本大震災により被災した者，又は東日本大震災や 福島原子力発電所事故により転学等をした者の事前相談	61
入試過去問題の使用について	61
平成 28 年度大分大学入学者選抜試験実施状況	62
募集要項（願書）・大学案内の請求方法	64

理工学部（仮称）の設置及び経済学部における事業共創学科（仮称）の設置について

大分大学では平成29年4月に、下記のとおり理工学部（仮称）の設置及び経済学部における事業共創学科（仮称）の設置（以下経済学部は改組）を予定しており、現在、大学設置等の認可申請中です。この設置計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果通知によって確定するものであり、内容の変更があり得ます。

この設置・改組に伴い、既存の学科コースにおいて、下図の通り名称と募集人員の変更を行います。

この入学者選抜要項に掲載している募集人員、入学者選抜方法などはすべて予定であり、詳細については、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果通知（平成28年8月末予定）後、公表します。

工学部（入学定員）

平成28年度（募集停止）
工学部＜370名＞
機械・エネルギーシステム工学科＜80名＞ 機械コース エネルギーコース
電気電子工学科＜80名＞ 電気コース 電子コース
知能情報システム工学科＜70名＞
応用化学科＜60名＞
福祉環境工学科＜80名＞ 建築コース＜50名＞ メカトロニクスコース＜30名＞



理工学部（入学定員）

平成29年度（設置）
理工学部＜385名＞
創生工学科＜235名＞ 機械コース＜75名＞ 電気電子コース＜75名＞ 福祉メカトロニクスコース＜35名＞ 建築学コース＜50名＞
共創理工学科＜150名＞ 数理科学コース＜15名＞ 知能情報システムコース＜65名＞ 自然科学コース＜15名＞ 応用化学コース＜55名＞

工学部（募集人員）

平成28年度（募集停止）
工学部＜370名＞
一般入試前期日程＜238名＞ 一般入試後期日程＜66名＞ 推薦入試（A推薦）＜46名＞ 推薦入試（B推薦）＜20名＞ 帰国子女入試＜若干名＞ 私費外国人留学生入試＜若干名＞



理工学部（募集人員）

平成29年度（設置）
理工学部＜385名＞
一般入試前期日程＜248名＞ 一般入試後期日程＜67名＞ 推薦入試（一般推薦）＜37名＞ 推薦入試（サイエンス推薦）＜14名＞ AO入試＜19名＞ 帰国子女入試＜若干名＞ 私費外国人留学生入試＜若干名＞

経済学部（入学定員）

平成 28 年度（改組前）
経済学部＜305 名＞
経済学科＜130 名＞
経営システム学科＜130 名＞
地域システム学科＜45 名＞



経済学部（入学定員）

平成 29 年度（改組後）
経済学部＜290 名＞
経済学科＜90 名＞
経営システム学科＜80 名＞
地域システム学科＜80 名＞
事業共創学科＜40 名＞

【注】経済学部は、入学後に所属学科を決定します。

経済学部（募集人員）

平成 28 年度（改組前）
経済学部＜305 名＞
一般入試前期日程＜120 名＞
一般入試後期日程＜ 90 名＞
推薦入試（普通推薦）＜50 名＞
推薦入試（商業推薦）＜25 名＞
AO入試（英語資格）＜ 5 名＞
AO入試（簿記資格）＜15 名＞
帰国子女入試＜若干名＞
社会人入試＜若干名＞
私費外国人留学生入試＜若干名＞



経済学部（募集人員）

平成 29 年度（改組後）
経済学部＜290 名＞
一般入試前期日程＜120 名＞
一般入試後期日程＜ 80 名＞
推薦入試（普通推薦）＜45 名＞
推薦入試（商業推薦）＜20 名＞
AO入試（英語資格）＜ 5 名＞
AO入試（簿記資格）＜15 名＞
AO入試（課題探究）＜ 5 名＞
帰国子女入試＜若干名＞
社会人入試＜若干名＞
私費外国人留学生入試＜若干名＞

「理工学部」の設置について

（１）設置の目的

大分大学工学部が、地（知）の拠点として地域を創生し社会へ貢献するには、イノベーション創出とグローバル化へ対応できる人材の育成が不可欠です。そこで、従来の工学部に技術の基礎である理学分野を取り入れ理工学部を設置し、理学と工学の融合からイノベーションを生み出す可能性に富む教育と研究を行うことと致しました。理工学部では、自然科学や数理科学という理学系のコースを新たに創設し、かつ、既設の工学系分野における医工連携、エネルギー関連、安全・安心・持続可能な社会環境の実現など、地域から世界へ繋がる研究展開で更なる飛躍を目指します。また、理と工の融合連携を図った特色ある教育により総合力を備えた人材を輩出します。

（２）設置の概要

理学系分野を拡充して理工学部を設置し、創生工学科と共創理工学科の2学科体制とします。創生工学科には、機械コース、電気電子コース、福祉メカトロニクスコース、建築学コースの4コースを置き、共創理工学科には、知能情報システムコースと応用化学コースに加えて、新たに数理科学コース、自然科学コースの2コースを置きます。

＜基本理念＞

新たに理学分野である生物科学、環境科学及び複雑系科学を取り入れるとともに、物質科学、生物科学、環境科学を複合的に捉えるための基盤となる数理科学を強化することにより、安心かつ持続可能な地域社会の実現と地域のイノベーション創出に向けた教育と研究を行います。また従来から取り組んできた、大分大学工学部の特徴分野である医工連携、エネルギー、及び防災・減災分野においても付加価値の高いものづくり技術の創出に向けた教育と研究を行います。

＜教育の目標＞

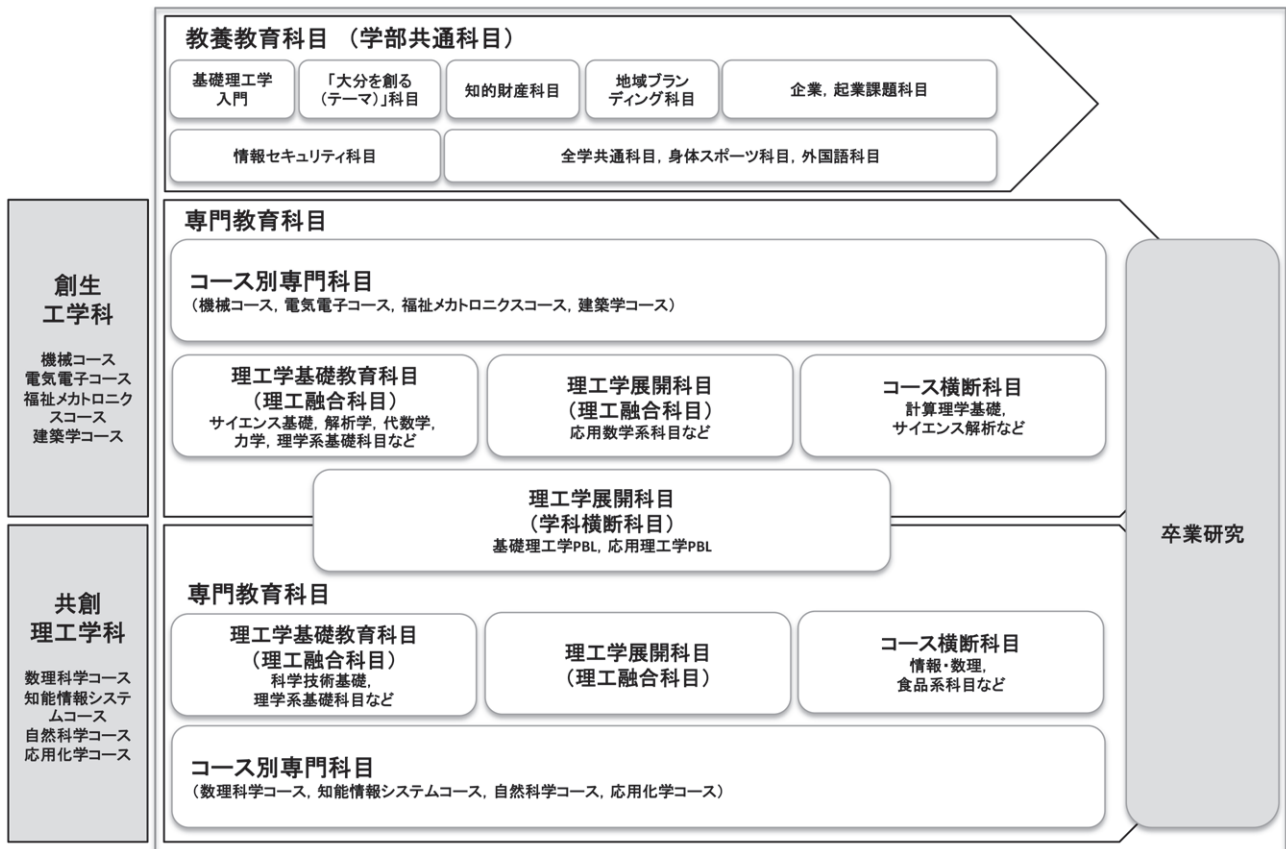
創生工学科では、「工学の専門性を究めつつ理学の素養を併せ持つ人材」を、共創理工学科では、「理学の専門性を究めつつ工学の素養を併せ持つ人材」をそれぞれ養成します。

＜教育課程＞

理工融合人材の育成のため、次の図に示すような理工融合教育プログラムを導入します。本プログラムでは専門教育科目の中に新たに「理工学基礎教育科目」、「理工学展開科目」、「コース横断科目」を設置し、初年次の導入教育から、専門教育に至る一貫した理工融合の教育体系を実現しています。理工融合科目を両学科の必修科目として新設し、理工学の基礎的な知識や考え方、各分野の専門的導入科目で学修した必須の学力や技術力、及び各分野の専門的知識をもとに、理工学分野に幅広く対応できる応用力を養います。

創生工学科では、シミュレーション技術を応用するカリキュラム体系を4コース間で共有します。共創理工学科では、「コース横断科目」として、数理科学コースと知能情報システムコース間で、プログラミングやデータベース関連の科目を互いに選択できるようなカリキュラム体系を、自然科学コースと応用化学コース間で、「食」の分野に対応できる人材を育成するカリキュラム体系をそれぞれ実現しています。社会問題になっている情報セキュリティの導入的基礎知識を修得するための科目も必修科目として新設します。

その他、グローバルに活躍できる理工系人材育成のため、外国語の文献講読や英語でのプレゼンテーションに対応できる科目をすべてのコースに必修科目として配置しています。

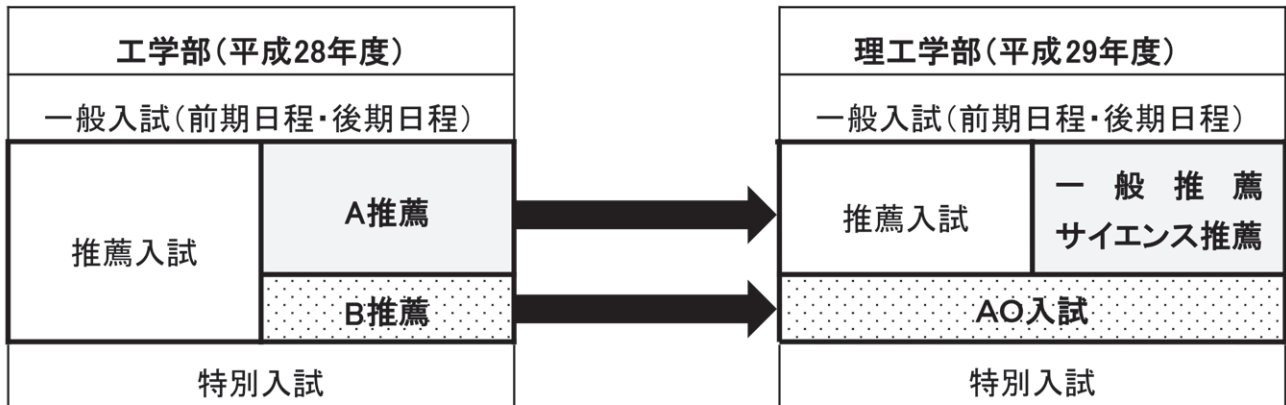


<入学者選抜>

一般入試 (前期日程・後期日程), 推薦入試, 特別入試のほかに, 新たにアドミッション・オフィス (AO) 入試を実施し, アドミッション・ポリシーにそって学生を選考します。

AO 入試は, 創生工学科全コース, 共創理工学科知能情報システムコース及び応用化学コースにおいて実施し, 高等学校等の機械, 電気, 電子, 情報, 計算機, 化学, 建築, 土木に関する学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者を対象として, 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し, 調査書, 自己推薦書, 活動報告書, 基礎能力試験, 小論文及び面接, あるいはいずれかにより総合的に評価し, 選抜します。これに伴い, 高等学校等の機械, 電気, 電子, 情報, 計算機, 化学, 建築, 土木に関する学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者を対象とした, 従来の推薦入試 (B 推薦) は廃止します。

また, 高等学校等において科学に関する特別活動 (例: SSH プログラム, 科学クラブ等) に取り組んだ経験のある者を対象にした推薦入試 (サイエンス推薦) を新たに導入します。サイエンス推薦は大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し, 科学に関する特別活動の実績を示す資料, 調査書, 推薦書, 志望理由書, プレゼンテーション及び面接により総合的に評価し, 選抜します。プレゼンテーションでは, 科学に関する特別活動の内容に関する発表と質疑応答を行います。



「経済学部」の改組について

(1) 改組・学科新設の理念・目的

今日、わが国では、産業競争力の低下、少子高齢化等の諸課題を克服するために「グローバルなイノベーション競争を勝ち抜くための教育、人材育成システム」が課題とされています（産業競争力懇談会提言 2012 年）。こうした企業経営上の革新（イノベーション）は中央大手企業だけではなく地方経済でも求められています。また、イノベーションを企業間、行政やNPO等地域社会とともに実現すること、あるいはその手法を公的サービスにも活用して社会問題を解決する取組みも求められています（骨太の方針 2015）。このように、商品・サービスの開発など、イノベーション＝新たな価値をつくり出す事業は、社会の多面的な構成員相互のつながりと広がり背景に希求されており、これを担いうる人材の育成が急務となっています。

こうした状況を踏まえて、本学部は、企業経営での新商品・サービス開発や、地域活性化のための街づくり等、事業創造において、これに関する基礎的な知見を備え、企業間、企業と行政・NPO・市民間等、組織の中でこれに携わる人材の育成を行う学科「事業共創学科（仮称）」を設置します。

学科新設と同時に、経済、経営システム、地域システム3学科においても学生定員の変更等学部改組に取り組み、これまでの人材育成に関わる実績を踏まえたうえで、地域社会からの人材育成の社会的要請にも応えられるよう、新たな地域課題教育プログラムなど学部全体の教育改善向上を図ります。

(2) 「事業共創学科（仮称）」の概要

募集人員：40名

入 試：学部を単位として行います。各学科への所属は入学後に決定します。

学 位：学士（経済学）

(3) 「事業共創学科（仮称）」で育成する人材

本学科では、次のような力や知見を備えた人材を育成します。

新商品・サービス開発、公的サービスにおける事業創造による新たな価値創造（イノベーション）が求められる社会経済状況を理解し、それに関する基礎的な知見を備え、組織の中でイノベーション強化に携わる人材を育成します。

☆就職先・職種

- ・企業内・企業間起業家（製品・サービス開発，マーケティング・企画，知的財産部門担当者）
- ・イノベーションを促進する過程で生じる諸問題の相談に対応できる事業コンサルタントやシンクタンク研究員
- ・サービス・イノベーション（サービス業における生産性の向上やイノベーション創出など）を必要とする観光産業や自治体の職員・NPO・NGO職員
- ・自治体の政策立案・企画担当職員
- ・行政機関のボランティア支援部門，産業地域振興部門担当職員
- ・イノベーションを主体的に企画・立案できる起業家
- ・組織改革とネットワークの構築によるイノベーションが必要な6次産業従業者

（4）「事業共創学科（仮称）」における教育課程の特徴

新商品・サービス開発といった企業経営上の革新について，また，NPO創設による地域活性化等社会課題への民間手法の活用について，地域現場での体験を組み込んだ実践的な教育を通じ，基礎から応用・実践まで段階的に学びます。

- ・企業経営上の革新を主な対象とする科目：
イノベーションマネジメント入門，ベンチャー起業論，製品開発論など
- ・イノベーションとこれを生む経済との関連を分析する科目：
広告の経済分析，都市イノベーション論，組織の経済学など
- ・地域活性化等企業経営の手法を活用した社会課題解決に係わる科目：
社会調査法，ソーシャル・イノベーション論，NPO/NGO論など

大分大学アドミッション・ポリシー

基本理念

人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与することです。

教育の目標

1. 学生の立場にたった教育体制のもとで、広い視野と深い教養を備え、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を育成します。
2. ゆるぎない基礎学力と高度の専門知識を修得し、創造性と応用力に富んだ人材を育成します。
3. 高い学習意欲をもち、たゆまぬ探究心と総合的な判断力を身につけ、広く世界で活躍できる人材を育成します。

求める学生像

意欲をもち、将来への可能性を秘めている人を求めています。

1. 幅広く、より深く学ぶための基礎的能力をもっている人
2. 旺盛な知的好奇心をもち、新しい課題に積極的に取り組む人
3. 自分のもつ資質を磨き、能力を伸ばしたい人
4. 夢や目的をもち、周囲と協力しつつその実現に向けて努力する人
5. 志をもって国際社会及び地域社会への貢献をめざす人

教育学部アドミッション・ポリシー

基本理念・目標

地域の学校教育の発展のため、教育に関する専門的な知識・技能を学校現場の中で創造的・総合的に活用し、新たな学びや地域の教育課題に適切に対応できる実践的指導力を備えた小学校教員，特別支援学校教員の養成を行うことです。

求める学生像

- ・ 小学校教員として，あるいは特別支援学校教員として子どもたちの教育や支援に取り組む意欲と情熱がある人
- ・ 学校教育に深い関心があり，大分県を中心とした地域社会への貢献ができる人
- ・ 物事を多面的に分析し，自ら課題を見つけ，他者と協働して課題解決ができる人
- ・ 子どもや他者とのコミュニケーションが積極的にでき，相互理解を深めようとする人

入学者選抜の基本方針

教育学部では，多様な観点から受験者の学力や資質をみるため，一般入試（前期日程・後期日程）及び推薦入試を実施し，「求める学生像」にそって学生を選考します。

一般入試（前期日程）

総合的な学力をみるため，大学入試センター試験と個別学力検査を課しています。大学入試センター試験は5～6教科7～8科目とし，個別学力検査では教科の試験と面接を課しています。

一般入試（後期日程）

総合的な学力をみるため，大学入試センター試験と個別学力検査を課しています。大学入試センター試験は5～6教科7～8科目とし，個別学力検査では面接を課しています。

推薦入試

総合的な学力をみるため，大学入試センター試験と面接を課しています。大学入試センター試験は5～6教科7～8科目とし，面接では提出書類と合わせて総合的に判断して選考します。

各選抜試験で重視する力や観点

入試区分	入試科目	確かな学力			求める学生像		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性・コミュニケーション力	教育や支援に取り組む意欲と情熱	学校教育への深い関心	
一般入試	前期日程	大学入試センター試験	○	○			
		教科の試験	○	○		○	
		面接		○	○	○	○
	後期日程	調査書	○		○	○	
		大学入試センター試験	○	○			
		面接		○	○	○	○
推薦入試	調査書	○		○	○		
	志望理由書		○		○	○	
	推薦書			○	○	○	
	大学入試センター試験	○	○				
	面接		○	○	○	○	

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

本学部の教育は、高等学校において学習する教科・科目を十分に理解し、習得していることを前提として行われます。このような点から、大学入試センター試験で課している教科・科目について、及び一般入試（前期日程）において各コースで課している教科・科目についてはその基礎を十分に理解し、習得するとともに、応用的な力を養うことが必要です。推薦入試や一般入試（後期日程）においては、これら教科・科目の試験は課していませんが、大学入学までにこれらの教科・科目を履修し、習得していることが望まれます。

国語：他者の考え・気持ちを理解するとともに、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりすることに習熟していることが必要です。

なお、習得しておくべき科目は国語総合の他、国語表現、現代文、古典に関する科目です。

地理歴史、公民：地理歴史科及び公民科における各科目の学習を通じて、基礎的な知識や技能を習得するとともに、地理、歴史及び現代社会に対する見方・考え方を身につけておくことが必要です。また、現代社会や世界には多様な価値観や考え方があることを理解するとともに、身近な地域や社会、世界で起こっている出来事や社会的事象に対して普段から興味や関心を持つことが望まれます。

数学：数学の基本的概念や原理・法則を理解するとともに、基礎的な計算技能を習得する必要があります。単に公式を暗記して問題に当てはめるのではなく、よりよい解法を求めて、既習の知識・技能を活用する姿を期待します。また、数学的な見方・考え方を身につけ、物事を数学的に判断・処理する能力を磨くことが必要です。なお、習得しておくべき科目は数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bです。

理科：基礎的な概念について理解をし、科学的な自然観を持つことが必要です。さらに、知識の暗記だけでなく、科学的・論理的な思考を展開するために必要な見方や考え方を身につけていることも必要です。

外国語（英語）：外国語（英語）を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに関する基礎的な能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲にあふれていることが必要です。特に情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする力を養い、国際社会に生きる人間としての精神と外国語（英語）の力を持つことが望まれます。

なお、習得しておくべき科目はコミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱです。

経済学部（改組予定）アドミッション・ポリシー

教育理念・目標

本学部は、経済学、経営学を中心にしながら社会科学の諸分野について、基礎から応用・実践に至るまで幅広く学習することを通じて、経済社会の動向を的確に把握し、社会の中核を支える人材を養成することをめざしています。

こうした人たちが今日の高度化・複雑化する社会に柔軟に対応しながら、各方面で真価を発揮するためには、基礎的能力が不可欠です。こうした能力を身につけることは、社会や経済の変化に対する適応力を高めるとともに、創造性を発揮するうえでの基盤になると考えています。また、実社会で活躍するうえで求められる実践力を身につけるためにも基礎的能力が重要です。そこで、学生の基礎的能力を高めることを本学部の教育目的とします。

この目的を達成するために基礎学力を伸ばすことのできる多様な授業、カリキュラムを編成するとともに、少人数教育に基づいたきめ細かな指導によって、論理力、表現力、開かれたコミュニケーション能力や共生する力を育成します。同時に、国際化、情報化などに対応できる能力も育成します。

求める学生像

本学部は、経済社会の諸問題に関心をもつ人に対して、その基礎的能力を高めることを教育の目的としています。

したがって、本学部に入学者は、経済社会への関心や基礎学力を有すると同時に、自分のもつ学力や能力を伸ばしたいという意欲をもつ学生であってほしいと考えています。特に、いきいきとした好奇心をもち続けられる人、しっかりした自分をもち自己表現ができる人、そして、バイタリティーあふれる人を本学部は求めています。卒業後の進路として、次のような目標をもっている人が入学することを歓迎します。

- ・金融界で活躍することをめざす人（たとえば銀行、保険会社、証券会社の仕事などをめざす人）
- ・産業界で活躍することをめざす人（たとえばメーカー、商社、サービス業の仕事やベンチャービジネスの起業などをめざす人）
- ・公務に携わることをめざす人（たとえば公務員、国税専門官、裁判所職員や警察などの仕事をめざす人）
- ・会計や税務、法務に携わることをめざす人（たとえば公認会計士、税理士、中小企業診断士、社会保険労務士、司法書士などをめざす人）
- ・教育や研究に携わることをめざす人（たとえば高校教員、事業コンサルタントやシンクタンク研究員、また大学院進学をめざす人）
- ・国際社会で活躍することをめざす人（たとえば国際公務員や海外ボランティア、また外国企業で働くことをめざす人）
- ・地域社会で活躍することをめざす人（たとえば県庁・市町村役場やマスコミ、病院、福祉施設、NPO・NGO、ボランティア組織、地場産品を扱う6次産業などで働くことをめざす人）

《各学科の特色》

本学部は、次の四つの学科によって構成され、それぞれ特色ある授業を提供しています。

とりわけ地域経済や地域社会に関する豊富な授業は他大学にはみられない充実したものです。学生は入学時に学科を決めず、基礎を幅広く学んだのち各自の希望に応じて所属学科を決めますが、学生の多様な関心やニーズに対応し、多面的な学習ができるように所属学科にかかわらず豊富なメニューのなかから自由に選択できるようにしています。

〈経済学科〉

経済学科では、家計、企業、政府などの経済主体の行動が生み出す経済社会の諸現象を分析できる経済学的な考え方を学びます。これにより、グローバル化された経済社会で活躍できる人材を育成します。

〈経営システム学科〉

経営システム学科では、現代企業のかかえる経営上の問題に対しての経営学・商学・会計学の諸理論を基礎・中級・応用と段階的に幅広く学び、かつ分析・解明する方法や技術を会得したうえで、それらを実社会で有効に活用し効果的な解決策を提案できる実践力を養います。

〈地域システム学科〉

地域システム学科では、地域経済、法律、行政、福祉など、住民の生活領域を学際的・総合的に学ぶとともに、異文化間コミュニケーションと国際相互理解を深める実践的な学習を行います。これにより、地域の経済社会や行政・法制度に関わる知識を十分に備え、グローバルな諸問題を総合的に理解し、それらを活用して、地域社会の再生・活性化のために、ローカルな実践ができる人材を養成します。

〈事業共創学科〉

事業共創学科では、商品・サービスの創造による企業経営上の革新や、行政やNPO等による社会事業創造に基づき、地域社会の課題を解決することを学びます。特に、イノベーション（新たな価値創造）が求められる社会経済状況を理解して、地域における現場体験を組み込んだ実践的な教育を通じ、課題探究能力およびチームワークを構築・維持できるようなコミュニケーション力を備えた人材や組織の中でイノベーション強化に携わる人材を養成します。

入学者選抜の基本方針

経済学部では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、推薦入試（普通推薦、商業推薦）、アドミッション・オフィス入試（AO入試）、社会人入試などを実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることをめざしています。

・一般入試（前期日程）

高等学校等において基礎的な学力を修得した学生を選抜するため、大学入試センター試験は5～6教科7～8科目とし、個別学力検査では数学と英語から1教科を選択します。

・一般入試（後期日程）

高等学校等において基礎的な学力を修得した学生を選抜するため、大学入試センター試験は4～5教科5科目とし、個別学力検査では小論文を課します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。

・推薦入試（普通推薦、商業推薦）

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。面接はグループによるディスカッション方式で行い、積極性や理解力、自己表現能力をみます。

・アドミッション・オフィス入試（AO入試）

[英語資格・簿記資格に基づく選抜制度]

英語または簿記の能力が高く、そのうえで経済学・経営学等を学び、能力を高めようとする意欲をもつ学生を選抜するため、大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。選抜方法は2段階選抜で、第1次選考は自己推薦書及び調査書による書類選考とします。第2次選考は小論文及び個人面接とします。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。個人面接では、提出書類も参考にして、取得資格に関する能力、積極性、自己表現能力をみます。

[課題探究型学習に基づく選抜制度]

高等学校等での学習過程の中で課題探究に取り組みながらその成果を残し、そのうえで経済学・経営学等を学び、能力を高めようとする意欲をもつ学生を選抜するため、大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。選抜方法は2段階選抜で、第1次選考は自己推薦書、調査書及び出願資格に関わる提出物による書類選考とします。第2次選考は小論文及び個人面接とします。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。個人面接では、提出書類も参考にして、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力および主体的に学習に取り組む態度をみます。

・帰国子女入試

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力（日本語能力を含む）をみます。面接では、経済社会への知的好奇心や勉学意欲、自己表現能力をみます。

・社会人入試

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。面接では、経済社会への知的好奇心や勉学意欲、自己表現能力をみます。

・私費外国人留学生入試

日本留学試験ならびに本学で実施する学力検査（数学または英語から1教科選択）、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力（日本語能力を含む）をみます。面接では、経済社会への知的好奇心や勉学意欲、自己表現能力をみます。

・第3年次編入学

英語、小論文、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

経済学部の教育は、高等学校等において学習する教科・科目を十分に理解していることを前提として行われます。学生の基礎的な能力を高めることが本学部の目標ですので、大学入学までに以下に掲げる能力等を身につけるようにしてください。

国語：資料や文章の読解力や大意把握力、自分の考えを説明するための論理的思考力と表現力が必要です。

地理歴史、公民：基礎的な知識と政治、経済、社会の動きに対する知的好奇心と探究心が必要です。

数学：基本的概念や原理・法則を理解することに加え、論理的な思考力と応用力（商業推薦の受験者にあっても、簿記に関する同様の思考力と応用力）が必要です。

理科：基礎的な知識と自然や科学に対する知的好奇心と探究心が必要です。

外国語（英語）：資料や文章の読解力と意思疎通のためのコミュニケーション能力、ならびに多様な言語文化に対する関心が必要です。

医学部アドミッション・ポリシー

基本理念

医と看護に関する最新の学術を教育・研究し、高度の医学及び看護学の知識並びに技術、そしてこれらを支える高い倫理観と豊かな教養・人間性を備えた医師或いは看護師・保健師、更には医学、看護学研究者を養成し、これら学問の進歩、国民の健康の維持増進、医療・保健を中心に地域や国際社会の福祉に寄与することが基本理念です。

教育の目標

〈医学科〉

患者の立場を理解した全人的医療を行い、豊かな教養と人間性、高度の学識、問題解決能力、生涯学習能力及び国際的視野を備えた医師や研究者を養成します。

〈看護学科〉

人々が心身ともに健康な生活を営めるよう、適切な看護を行うことができる専門的知識と技術の習得を促し、看護学の発展と地域住民の保健・医療・福祉の向上、ひいては国際社会への貢献ができるよう、豊かな人間性を備えた人材を養成します。

求める学生像

〈医学科〉

- 1 医師として人の健康と福祉及び科学の進歩に貢献したいという確固たる決意を持っている人
- 2 患者の痛みを分かち合い、患者に対する思いやりに満ちた慈愛の心を正しく体得しようとする志を持っている人
- 3 日進月歩の医学・医療に対応する知識と技術を習得するため、たゆまぬ努力と地道な研鑽を重ねることができる持続力と忍耐力を持ち合わせている人
- 4 他者の意見を良く聞き、協調して物ごとを進めることができる社会性とコミュニケーション能力を備えている人

〈看護学科〉

- 1 看護を通して社会に貢献しようとする意志と、他者の喜び、苦しみを分かち合える温かい心を持っている人
- 2 日進月歩の医療及び激動する社会の変化に対応しうる知識と技術の習得のため、たゆまぬ努力と自己研鑽（生涯学習）を重ねる人
- 3 国の内外を問わず、社会に起こっている問題に関心を持ち、それに対して自分の考えが述べられるような教養を備えている人
- 4 何ごとにも積極性を持ち、多くの人と交流ができる社会性を備えている人

入学者選抜の基本方針

〈医学科〉

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するために、医学科では、一般入試とアドミッション・オフィス入試を実施し、それぞれの選抜の趣旨に従って、多様な観点から受験者の学力や資質を評価しています。また、医学以外の大学在学者・卒業者を対象に2年次編入学を実施しています。

- ・一般入試（前期日程）

一般入試では、高等学校等での教科面における学習の達成度をみるため、大学入試センター試験は5教科7科目を課しています。個別学力検査では、前期日程において、理科（物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から2科目選択）、数学、英語の3教科の学力を測るとともに、面接によりコミュニケーション能力・学習意欲・倫理観等、受験者の素養を評価します。その際、高等学校等の調査書を参考資料とします。

- ・アドミッション・オフィス入試（略称「AO入試」）

AO入試とは、従来の高等学校長による推薦ではなく自己推薦による入試であり、本学部アドミッション・ポリシーに掲げた求める学生像について、学力のみで選抜するものとは異なり、丁寧な面接により適性等を評価し選抜するものです。一般入試と同じく大学入試センター試験は、高等学校での教科面における学習の達成度をみるため、5教科7科目を課しています。面接では、個人面接と集団面接を行い、医学を学ぶための適性・コミュニケーション能力・学習意欲・リーダーシップ・協調性・独創性等を評価します。また、自己推薦書、調査書及び特別活動に関する調査書から、志願者がどのような高校生活を送ってきたかを、課外活動やボランティア活動、資格等を中心に評価します。

- ・2年次編入学

2年次編入学では、多様な専門能力、明確な問題意識や高い問題解決能力を有する人材並びに地域医療の場で活躍できる人材を受け入れるため、次のような3段階による選抜方法を実施しています。第1次選抜では小論文を含む書類審査を、第2次選抜では生命科学に関する総合問題と英語の学力審査を、第3次選抜では個人面接と課題発表形式を取り入れた集団面接を行っています。

〈看護学科〉

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するために、看護学科では、一般入試と推薦入試を実施し、それぞれの選抜の趣旨に従って、多様な観点から受験者の学力や資質を評価しています。また、社会人を対象とした入試や、看護系短期大学・専修学校の卒業者等を対象とした3年次編入学を実施しています。

- ・一般入試（前期日程・後期日程）

一般入試では、高等学校での教科面における学習の達成度をみるため、大学入試センター試験については5教科5科目を課しています。また、個別学力検査については、前期日程では小論文を課すことにより、論理的思考力・表現力・読解力・看護学を学ぶための適性等を評価します。後期日程では面接によりコミュニケーション能力・学習意欲・倫理観等を評価します。

- ・推薦入試

推薦入試では、大学入試センター試験を免除し、小論文と面接を課しています。小論文では、理解力・統合力・思考力・表現力・独創性・論理性等を評価します。面接では、個人面接と集団面接を行い、看護学を学ぶための適性・コミュニケーション能力・学習意欲・自己理解力・リーダーシップ・協調性等を評価します。その際、高等学校長等の推薦書及び調査書を参考資料とします。

- ・社会人入試

社会人入試では、社会人としての経験を看護の分野に生かしてゆくことのできる有能な人材を受け入れるため、大学入試センター試験を免除し、小論文と面接を課しています。小論文では、理解力・統合力・思考力・表現力・独創性・論理性等を評価します。面接では、個人面接と集団面接を行い、看護学を学ぶための適性・コミュニケーション能力・学習意欲・自己理解力・リーダーシップ・協調性等を評価します。

・ 3年次編入学

短期大学の看護系学科及び看護系専修学校の卒業者等に、看護に対する専門能力及び指導能力をより高める機会を提供することを目的として、3年次への編入学を実施し、英語と総合問題と面接を課しています。総合問題では、専門基礎科目並びに専門科目に関する基礎知識・問題解決能力・統合能力を測り、面接では、コミュニケーション能力・学習意欲・倫理観等を評価します。

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

医学・医療を学ぶには、十分な基礎学力に加えて幅広い教養と他者への共感性、倫理性、社会的常識を備えていることが不可欠です。医学部の教育は、高等学校教育全科にわたって以下に掲げる基礎的な知識、技能、思考力、体力等をバランスよく身につけていることを前提として行なわれます。合格時に不足している項目については、入学までに確実に習得することが必要です。

<医学科>

国語：他者の考え・気持ちを理解し、自分の考え・気持ちを伝える十分な読解力と文章力、論理的思考力、コミュニケーション能力を磨くことが必要です。

地理歴史、公民：各科目の基礎的知識、社会的常識と思考力を身につけていることが必要です。

数学：理系数学（数学Ⅲ・数学Bの範囲まで）の知識、応用力と数理的思考力を身につけていることが必要です。

理科：物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物の知識と理学的思考力を身につけていることが必要です。

外国語（英語）：国際的視野に立つ思考力、外国語文献を読解し、外国語で発表する基礎的語学力を身につけていることが必要です。

保健体育：健康と体力を維持・管理する基礎的知識と技能が必要です。

<看護学科>

国語：他者の考え・気持ちを理解し、自分の考え・気持ちを伝える十分な読解力と文章力、論理的思考力、コミュニケーション能力を磨くことが必要です。

地理歴史、公民：社会科学的な基礎知識と思考力を身につけていることが必要です。

数学：数学Ⅰ又は数学Ⅱの基礎的知識、応用力と数理的思考力を身につけていることが必要です。

理科：物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物の知識と理学的思考力を身につけていることが必要です。

外国語（英語）：国際的視野に立つ思考力、会話力を身につけていることが必要です。

保健体育：健康と体力を維持・管理する基礎的知識と技能が必要です。

理工学部（設置予定）アドミッション・ポリシー

基本理念

質の高い特色ある研究を通じて、世界に通用する科学技術を創造し、もって地域に貢献するとともに、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成することです。

教育目標

自ら課題を探究する高い学習意欲と柔軟な思考力を有し、国際基準を満たすゆるぎない基礎学力と高度の専門知識を備えるとともに、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を養成します。特に、創生工学科では、「工学の専門性を究めつつ理学の素養を併せ持つ人材」を、共創理工学科では、「理学の専門性を究めつつ工学の素養を併せ持つ人材」をそれぞれ養成します。

求める学生像

環境や社会に対する影響も予見しながら、自然との共生や、真に人類に役立つ技術とは何かを自ら考え、理学及び工学分野の先進的科学技術によって人類福祉に貢献する意欲をもち、将来への可能性を秘めている人を求めています。

以上の観点と本学の求める学生像から、具体的には次のような人を求めています。

1. 理学及び工学の基礎をなす数学や理科等の基礎学力を備え、広範囲な事象に対して強い知的好奇心をもっている人
2. 理学及び工学分野の新しい課題を自ら見いだす着想力をもち、この課題に立ち向かう強い意志とねばり強さをもっている人
3. 豊かな感性と表現力をもち、自立的に考えながらも他人と協力・共同して物事を実行していく姿勢をもっている人
4. 技術者、研究者、教育者として、社会でリーダーシップと行動力を発揮することに強い意志をもっている人

【創生工学科】

安心かつ持続可能な社会実現のために、付加価値の高いものづくり技術の創出に意欲のある人

<機械コース>

ものづくりに興味があり、そのために必要な機械工学に関する専門知識を身につけ社会に貢献したいという意志をもっている人

<電気電子コース>

現代社会を支える電気電子工学分野に関心があり、この分野を主体的に学んで社会で活躍したいと考えている人

<福祉メカトロニクスコース>

メカトロニクスシステム（機械／電気系）と生体系、及びそれらの複合系に関する専門知識を身につけ福祉社会の発展に貢献したいという意志をもっている人

<建築学コース>

自然科学や工学のみならず社会科学、環境科学並びに芸術の分野に関心があり、安全・安心かつ持続可能な社会実現のために、高度化・多様化・国際化している建築技術の修得や魅力ある環境・空間の創生に意欲のある人

【共創理工学科】

数理・自然科学への興味とその技術的応用に取り組む意欲のある人

<数理科学コース>

数学に興味があり、科学技術を発展させるための様々な課題に対して、数学の立場からその解決方法を見出し、それに取り組む過程に魅力を感じる人

<知能情報システムコース>

情報科学の基礎から知能工学の応用までの幅広い学習と研究に取り組み、高度情報化社会において、新たな課題を自ら見つけだし、学んだことを生かして解決することを通じて、地域社会や世界に貢献したいという高い志をもっている人

<自然科学コース>

自然科学に関連する分野で地域社会や国際社会に貢献したいという意志をもっている人

<応用化学コース>

科学、工学の分野に関心があり、特に化学に関する幅広い専門知識・技術を身につけ社会に貢献したいという意志をもっている人

入学者選抜の基本方針

本学部では、多様な観点から受験生の学力や資質を見るため、一般入試（前期日程・後期日程）のほか、推薦入試（一般推薦、サイエンス推薦）、アドミッション・オフィス（AO）入試、特別入試（帰国子女入試、私費外国人留学生入試）などを実施し、アドミッション・ポリシーにそって学生を選考します。

・一般入試（前期日程）

大学入試センター試験（5教科7科目）及び個別学力検査（数学・理科）により選抜します。大学入試センター試験では、日常の学習の到達度、幅広い基礎学力の定着度、知識の（暗記だけではない）活用力を判断します。個別学力検査では、問題を解決するために適切な知識や技能を選択し、活用する能力、自らの考えを適切に表現する能力を判断します。

・一般入試（後期日程）

大学入試センター試験（5教科7科目）及び個別学力検査（面接）により選抜します。大学入試センター試験では、日常の学習の到達度、幅広い基礎学力の定着度、知識の（暗記だけではない）活用力を判断します。個別学力検査は、個人面接又は集団面接で行い、志望学科コースやそれに関わる分野への関心・意欲・理解、積極性、自己表現力を見ます。また、数学と理科に関する学力及び科学的思考能力を見る試問を含むことがあります。

・推薦入試（一般推薦）

大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、調査書、推薦書、基礎能力試験及び面接により総合的に評価し、選抜します。志望理由書は参考資料として用います。基礎能力試験では、基礎学力を含む論理的思考力、課題解決能力を見ます。面接は集団面接で行い、基礎学力に関する試問も含み、科学的思考力、専門分野への関心・意欲・理解、積極性、自己表現力などを見ます。

・推薦入試（サイエンス推薦）

高等学校等において、科学に関する特別活動（例：SSH プログラム、科学クラブ等）に取り組んだ経験のある者を対象として、大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、科学に関する特別活動の実績を示す資料、調査書、推薦書、志望理由書、プレゼンテーション及び面接により総合的に評価し、選抜します。プレゼンテーションでは、科学に関する特別活動の内容に関する発表と質疑応答を行います。面接は個人面接で行い、基礎学力に関する試問を含めて、科学的思考力、専門分野への関心・意欲・理解、積極性、自己表現力などを見ます。

・アドミッション・オフィス（AO）入試

創生工学科全コース、共創理工学科知能情報システムコース及び応用化学コースにおいて、高等学校等の機械、電気、電子、情報、計算機、化学、建築、土木に関する学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者を対象として、大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、調査書、自己推薦書、活動報告書及び面接により総合的に評価し、選抜します。面接は集団面接で行い、基礎学力に関する試問を含めて、科学的思考力、専門分野への関心・意欲・理解、積極性、自己表現力などを見ます。なお、創生工学科建築学コースと共創理工学科知能情報システムコースでは、高等学校等で学習する内容に関する学力及び科学的思考能力を判定する基礎的な筆記試験を、共創理工学科応用化学コースでは小論文を課します。

・帰国子女入試

大学入試センター試験を免除し、本学で実施する学力検査（数学，理科，英語），面接，提出書類により総合的に評価し，選抜します。面接では，専門分野への関心・意欲・理解を見るとともに，積極性，自己表現力を見ます。また，理解力・論理的思考力・表現力を見るために基礎学力に関する試問を含むことがあります。

・私費外国人留学生入試

日本留学試験ならびに本学で実施する学力検査（数学，理科，英語），面接により総合的に評価し，選抜します。面接では，日本語能力，専門分野への関心・意欲・理解を見るとともに，積極性，自己表現力を見ます。また，理解力・論理的思考力・表現力を見るために基礎学力に関する試問を含むことがあります。

・第3年次編入学

面接，提出書類により総合的に評価し，選抜します。面接では，簡単な筆記試験及び口頭試問により，基礎学力や専門分野の学力を見るとともに，専門分野への意欲，積極性，論理的思考力，自己表現力についても評価します。

各選抜試験で重視する観点

入試区分		学力の3要素			求める資質・能力			
		主体性・ 協働力	思考力・ 判断力・ 表現力	知識・ 技能	着想力， 探究力， 行動力を 有する	意欲・関 心・積極 性・持続 性を有す る	他者と協 同して理 解を深め る力を有 する	
		AP1, AP3 に関連	AP1, AP3 に関連	AP1に 関連	AP2に 関連	AP4に 関連	AP3に 関連	
一般入試	前期日程	大学入試センター試験		○	○			
		個別学力検査（教科の試験）		◎	○	○		
	後期日程	大学入試センター試験		○	◎			
		個別学力検査（面接）		○	○	○	◎	○
推薦入試	一般推薦	基礎能力試験		○	○			
		面接（口頭試問を含む）		○	○	○	○	○
		推薦書	○	○			○	
		調査書	○		○			
	サイエンス推薦	プレゼンテーション		◎		○		
		面接（口頭試問を含む）		○	○	○	○	○
		志望理由書		○			○	
		推薦書	○	○			○	
		○		○				
AO入試		面接（口頭試問を含む）		○	○	○	◎	○
		自己推薦書		○			○	
		活動報告書	○			○	◎	
		調査書	○		○			

◎ 特に重視する

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

理工学部教育においては、高等学校において学習する以下の教科・科目の内容を理解していることが望まれます。高等学校の教育課程や入試区分等の違いもあるため、理解のレベルは個人によってそれぞれ異なると思います。不足していると思われる項目については、入学までに身につけるよう期待します。

国語

他者の考え・気持ちを理解するとともに、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりすることに習熟していることが必要です。習得しておくべき科目は、国語総合、国語表現、現代文、古典です。

地理歴史、公民

地理歴史、公民の各科目の学習を通じて、基礎的な知識を習得するとともに、地理・歴史及び現代社会に対する客観的な見方・考え方を身につけるとともに、政治・経済・社会の動きに対して常に興味や関心を持つことが必要です。

数学

数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学Bについて、基礎的な計算技能を習得するとともに、基本的な定理を理解して活用できることが必要です。また、数学的な見方・考え方を身につけ、物事を数学的に判断・処理することに習熟していることが必要です。

理科

物理、化学、生物に関する基礎的な概念を理解するとともに、科学的・論理的な思考を展開するために必要な見方・考え方を身につけていることが必要です。習得しておくべき科目は、物理基礎及び物理、化学基礎及び化学、生物基礎及び生物、から2科目以上です。

外国語（英語）

外国語（英語）を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに関する基礎的な能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲にあふれ、国際社会に生きる人間としての精神と外国語（英語）の力を持つことが必要です。習得しておくべき科目は、コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱです。

福祉健康科学部アドミッション・ポリシー

基本理念

福祉と医療、心理を融合した新しい教育研究を通じ、リハビリテーション学、社会福祉学、心理学の学問領域に立ち、それぞれの学問領域における高度な専門的知識と技能のみならず他領域における知識等を体系的に習得することを通じて、「地域包括ケア」のリーダーとして活躍できる人材養成を行うことによって、より成熟した福祉社会の実現に寄与することです。

教育の目標

資格取得をめざすのみではなく、「高度な専門性」と「社会人としての教養と態度」を備えた医療・福祉・心理の各分野における「実践専門職」として社会に貢献するとともに、包括的な支援を高度にマネジメントできるリーダーとして「地域包括ケア」の実現に寄与する人材を養成します。

求める学生像

本学部において、以下の人材を求めます。

- ・大学において、教養と専門的知識を習得するために必要な基礎学力とコミュニケーション能力を持つ人
- ・福祉社会の実現に関心を持ち、自ら考え、実践・努力する人
- ・様々な活動に主体的に取り組めるとともに、思いやりの心を持って行動できる人
- ・地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持つ人
- ・知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む人
〈理学療法コース〉
- ・リハビリテーションの専門知識や技能を生かして社会に貢献したいという意思を持つ人
〈社会福祉実践コース〉
- ・福祉の専門職として、地域に貢献し、社会に役立ちたいという意思を持つ人
〈心理学コース〉
- ・心理学の知識や技能を生かして社会で活躍し、貢献したいという意思を持つ人

入学者選抜の基本方針

本学部では、求める学生像のみならず、高等学校及び大学において育成すべき「生きる力」「確かな学力」の本質を踏まえつつ、アドミッション・ポリシーに基づき、受験者の多様な能力を多元的に評価する個別選抜を確立するために、一般入試（前期日程・後期日程）及び推薦入試（理学療法コース及び心理学コースは実施しない）を実施し、高等学校等で培われた学びの意欲や活動を多面的・総合的に評価し、選考します。

- ・一般入試（前期日程、後期日程）

総合的な学力をみるため、大学入試センター試験と個別学力検査を課します。大学入試センター試験は5～6教科7～8科目とし、個別学力検査では、各コースの専門に応じたテーマを設定した小論文及び面接を全員に課します。小論文では論理的思考力、表現力（文章構成力を含む）を、面接ではコミュニケーション能力、協調性、積極性などをみます。

- ・推薦入試

「社会福祉実践コース」のみ推薦入試を行います。特に、大学入試センター試験を課さない推薦入試においては、アドミッション・ポリシーに基づき多様な能力を多元的に評価する選抜として、小論文では総合問題等を導入し、論理的思考力、表現力を測り、面接ではコミュニケーション力やリーダーシップを測ることにより丁寧な選抜を行います。

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

本学部の教育は、高等学校において学習する教科・科目を十分に理解し、習得していることを前提として行われます。個別学力検査及び推薦入試においては、これら教科・科目の試験は課していませんが、大学入学までにこれらの教科・科目を履修し、習得していることが望まれます。

国語：他者の考え・気持ちを理解するとともに、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりすることに習熟していることが必要です。

なお、習得しておくべき科目は国語総合、国語表現、現代文、古典です。

地理歴史・公民：地理歴史科及び公民科における各科目の学習を通じて、基礎的な知識や技能を習得するとともに、地理、歴史及び現代社会に対する見方・考え方を身につけておくことが必要です。また、現代社会や世界には多様な価値観や考え方があることを理解するとともに、身近な地域や社会、世界で起こっている出来事や社会的事象に対して普段から興味や関心を持つことが望まれます。

数学：数学の基本的概念や原理・法則を理解するとともに、基礎的な計算技能を習得する必要があります。単に公式を暗記して問題に当てはめるのではなく、よりよい解法を求めて、既習の知識・技能を活用する姿を期待します。また、数学的な見方・考え方を身につけ、物事を数学的に判断・処理する能力を磨くことが必要です。

なお、習得しておくべき科目は数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bです。

理科：基礎的な概念について理解をし、科学的な自然観を持つことが必要です。さらに、知識の暗記だけでなく、科学的・論理的な思考を展開するために必要な見方や考え方を身につけていることも必要です。

外国語（英語）：外国語（英語）を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに関する基礎的な能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲にあふれていることが必要です。特に情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする力を養い、国際社会に生きる人間としての精神と外国語（英語）の力を持つことが望まれます。

なお、習得しておくべき科目はコミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱです。

入学者選抜実施日程

入試区分		学 部	募集要項 公表時期	出願期間	試験日	合格者発表
一 般 入 試	前期日程	経済学部（改組予定） 医学部看護学科 理工学部（設置予定） 福祉健康科学部	12月上旬	平成29年1月23日（月）～ 平成29年2月1日（水）	平成29年2月25日（土）	平成29年3月6日（月）
		教育学部【注】 医学部医学科			平成29年2月25日（土） 平成29年2月26日（日）	
	後期日程	教育学部 経済学部（改組予定） 医学部看護学科 理工学部（設置予定） 福祉健康科学部			平成29年3月12日（日）	平成29年3月20日（月）
推薦入試Ⅰ		経済学部（改組予定） 医学部看護学科 理工学部（設置予定） 福祉健康科学部	10月上旬	平成28年11月1日（火）～ 平成28年11月4日（金）	平成28年11月16日（水）	平成28年11月29日（火）
推薦入試Ⅱ		教育学部				平成29年2月8日（水）
A O 入 試		経済学部（改組予定）	6月中旬	平成28年8月17日（水）～ 平成28年8月23日（火）	平成28年9月23日（金）	平成28年10月14日（金）
		理工学部（設置予定）	9月上旬	平成28年9月26日（月）～ 平成28年9月30日（金）	平成28年10月24日（月）	平成28年11月10日（木）
		医学部医学科	6月中旬	平成28年11月1日（火） ～平成28年11月4日（金）	平成29年2月5日（日）	平成29年2月8日（水）
帰国子女入試		経済学部（改組予定） 理工学部（設置予定）	12月上旬	平成29年1月16日（月）～ 平成29年1月20日（金）	平成29年2月3日（金）	平成29年2月13日（月）
私費外国人 留学生入試		経済学部（改組予定） 理工学部（設置予定）				
社会人入試		経済学部（改組予定） 医学部看護学科				

【注】教育学部の一般入試前期日程試験日は予定であり、平成29年2月25日（土）の1日で実施する場合があります。

この試験日については、平成29年度一般入試募集要項（12月上旬）で公表します。

募集人員

学部	課程・学科・コース		入学 定員	募 集 人 員				
				一般入試		推薦入試	AO入試	
				前期日程	後期日程			
教育学部	学校教育 教員養成 課程	小学校 教育コース	125	80	20	25	—	
		特別支援 教育コース	10	3	2	5	—	
	計		135	83	22	30【注2】	—	
(改組 予定) 経済学部	経済学科		90	120	80【注3】 ①②③	普通推薦 45 商業推薦 20	英語資格 5 簿記資格 15 課題探究 5	
	経営システム学科		80					
	地域システム学科		80					
	事業共創学科		40					
	計【注1】		290	120	80	65【注2】	25【注2】	
医学部	医学科		100	65	—	—	一般枠 22 地域枠 13	
	看護学科		60	35	10 【注3】②	15	—	
	計		160	100	10	15【注2】	35【注2】	
(設置 予定) 理工学部	創生 工学科	機械コース	75	44 【注3】①③	15	一般推薦 11 サイエンス推薦 2	13	3
		電気電子コース	75	52 【注3】①③	10	一般推薦 9 サイエンス推薦 2	11	2
		福祉メカトロニクス コース	35	18 【注3】①③	7	一般推薦 6 サイエンス推薦 2	8	2
		建築学コース	50	35 【注3】①③	10	—	—	5
	共創 理工学科	数理科学コース	15	11 【注3】①③	2	— サイエンス推薦 2	2	—
		知能情報システム コース	65	41 【注3】①③	10	一般推薦 7 サイエンス推薦 2	9	5
		自然科学コース	15	10 【注3】①③	3	— サイエンス推薦 2	2	—
		応用化学コース	55	37 【注3】①③	10	一般推薦 4 サイエンス推薦 2	6	2
	計		385	248	67	一般推薦 37 サイエンス推薦 14 【注2】	51	19 【注2】
	福祉 健康 科学部	福祉 健康 科学科	理学療法コース	30	25	5	—	—
社会福祉実践 コース			35	23	6	普通推薦 5 福祉推薦 1	6	—
心理学コース			35	30	5	—	—	
計		100	78	16	6	—		
合 計			1070	629	195	167	79	

【注1】経済学部は、入学後に所属学科を決定します。

【注2】推薦入試、AO入試の入学者が募集人員に満たなかった場合は、一般入試（前期日程）で補充することがあります。

【注3】募集人員には、①帰国子女入試、②社会人入試、③私費外国人留学生入試の募集人員(若干名)を含みます。

一般入試入学者選抜方法等

① 出願資格

平成 29 年度大学入学者選抜「**大学入試センター試験**」で本学が指定する**教科・科目を受験した者**で、次のいずれかに該当する者です。

- (1) 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を卒業した者及び平成 29 年 3 月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び平成 29 年 3 月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第 150 条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成 29 年 3 月 31 日までにこれに該当する見込みの者

なお、同条第 7 号により出願を希望する者は、事前に入学者資格認定の審査を行いますので、学生支援部入試課へ申し出てください。

<参考>学校教育法施行規則第 150 条第 7 号

大学において、個別の入学者資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳に達したもの

申 出 先 〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地 大分大学学生支援部入試課 TEL 097-554-7471
--

【注 1】学校教育法第 90 条第 2 項による高校 2 年生からのいわゆる飛び入学については、実施しません。

【注 2】出願資格のない者が受験しても合格とならないので注意してください。

② 志願学部・学科等

国立大学（※独自日程で入学者選抜試験を行う国立大学・学部を除く。）入学志願者は、一般入試（個別学力検査）について、前期日程から 1 つ、後期日程から 1 つ、公立大学中期日程から 1 つの合計 3 つの国立大学・学部に出願することができます。なお、本学のみに出願する場合、前期日程と後期日程において学部・学科等の組み合わせに制限はありません。

※公立大学協会ホームページ（<http://www.kodaikyo.org/nyushi>）を参照

(1) 教育学部

志願できるコースは、前期日程及び後期日程とも 1 つのみです。

(2) 経済学部（改組予定）

前期日程及び後期日程とも各学科の募集人員を一括して募集し、所属学科は入学後に決定します。

(3) 医学部

志願できる学科は、前期日程及び後期日程とも 1 つのみです。（ただし、医学科は後期日程は実施しません。）

(4) 理工学部（設置予定）

(ア) 志願できる学科・コースは、前期日程及び後期日程とも第 3 志望まで認めます。また、第 1 志望のみ又は第 2 志望まででもかまいません。

(イ) 前期日程において、第 1 志望の学科・コースに必要な個別学力検査受験科目（理科）を受験していない場合は、第 1～第 3 志望とも判定の対象になりません。

(ウ) 前期日程及び後期日程とも、共創理工学科の各コースを第 1 志望にして、創生工学科の各コースを第 2 志望又は第 3 志望にする場合は、大学入試センター試験で「物理」を選択していることが必要です。

(5) 福祉健康科学部

志願できるコースは、前期日程及び後期日程とも 1 つのみです。

③ 平成 29 年度入学者選抜の実施教科・科目等及び配点

教科・科目名の表記方法について

(1) 大学入試センター試験の利用教科・科目名は、次のように略しています。

・国語→国

『国語』→「国」

・地理歴史→地歴

「世界史A」→「世A」, 「世界史B」→「世B」, 「日本史A」→「日A」,

「日本史B」→「日B」, 「地理A」→「地理A」, 「地理B」→「地理B」

※「同一名称のA・B出題科目」とは, 「世界史A」と「世界史B」, 「日本史A」と「日本史B」, 「地理A」と「地理B」を指します。

・公民→公民

「現代社会」→「現社」, 「倫理」→「倫」, 「政治・経済」→「政経」,

『倫理, 政治・経済』→「倫・政経」

※「同一名称を含む出題科目」とは, 「倫理」と『倫理, 政治・経済』, 「政治・経済」と『倫理, 政治・経済』を指します。

・数学→数

「数学I」→「数I」, 『数学I・数学A』→「数I・数A」,

「数学II」→「数II」, 『数学II・数学B』→「数II・数B」,

『簿記・会計』→「簿」, 『情報関係基礎』→「情報」

・理科→理

「物理基礎」→「物基」, 「化学基礎」→「化基」, 「生物基礎」→「生基」, 「地学基礎」→「地基」,

「物理」→「物」, 「化学」→「化」, 「生物」→「生」, 「地学」→「地学」

※「基礎を付した科目」とは, 「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」を指します。

※「基礎を付さない科目」とは, 「物理」「化学」「生物」「地学」を指します。

※「同一名称を含む出題科目」とは, 「物理基礎」と「物理」, 「化学基礎」と「化学」, 「生物基礎」と「生物」, 「地学基礎」と「地学」を指します。

・外国語→外

『英語』→「英」, 『ドイツ語』→「独」, 『フランス語』→「仏」, 『中国語』→「中」,

『韓国語』→「韓」

(注) 『 』で記載しているものは, 2つの科目を総合したもの又は2つ以上の科目に共通する内容を盛り込んだ出題科目です。

(2) 個別学力検査の出題教科・科目名は, 上記1によるほか次のように略しています。

・「国語総合」→「国総」

・「数学A」→「数A」, 「数学B」→「数B」, 「数学Ⅲ」→「数Ⅲ」

・「コミュニケーション英語I」→「コ英I」, 「コミュニケーション英語II」→「コ英II」, 「コミュニケーション英語Ⅲ」→「コ英Ⅲ」,

「英語表現I」→「英表I」, 「英語表現II」→「英表II」

◎36～41 ページの「大学入試センター試験・個別学力検査、その他の注意事項」も確認してください。

学部・課程・学科等名及び入学定員等 〔平成28年度 志願倍率〕	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査		
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜
教育学部 〔6.2〕 135人 前期 83 後期 22 推薦 30 学校教育 教育教員 養成課程	小学校教育コース 125人 前期 80 後期 20 推薦 25	前期 2月25日	国 国 数 数Ⅰ・数Ⅱ 数Ⅱ・数Ⅲ, 簿, 情報から1 地歴 世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1又は2 公民 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } ※2 理 ①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1 ③物基, 化基, 生基, 地学から2と 物, 化, 生, 地学から1 ※3 ④物, 化, 生, 地学から2 } ※1	国 国総(漢文を除く) 数 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数Ⅳ 外 コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・ 英表Ⅰ・英表Ⅱ } から1 ※4 その他 面接 ※数Ⅲは「場合の数と確率, 図形の性質」 数Ⅳは「数列, ベクトル」		
		後期 3月12日	外 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7～8科目又は6教科7～8科目]	その他 面接		
	特別支援 教育コース 10人 前期 3 後期 2 推薦 5	前期 2月25日	国 国総(漢文を除く) 数 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数Ⅳ 外 コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・ 英表Ⅰ・英表Ⅱ } から1 ※4 その他 面接 ※数Ⅲは「場合の数と確率, 図形の性質」 数Ⅳは「数列, ベクトル」			
	後期 3月12日	その他 面接				

- ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②, 又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④
- ※2 「地理歴史」においては, 同一名称のA・B出題科目, 「公民」においては, 同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- ※3 「理科」において, 同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は, 「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は, 出願資格を満たさないこととなります。
- ※4 個別学力検査の〔 〕で示した配点は, 個別学力検査で選択した教科の得点を合否判定に使用します。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等									その他の入試方法等
試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点 合計	
センター試験	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200			900	推薦 追加合格
個別学力検査	[150]※4		[150]※4		[150]※4		150	300	
計	350※4	200	200	100	200		150	1200	
		100		200					
	200	200	350※4	100	200	350※4			
		100		200					
センター試験	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200			900	
個別学力検査							200	200	
計	200	200 100	200	100 200	200		200	1100	
センター試験	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200			900	
個別学力検査	[150]※4		[150]※4		[150]※4		150	300	
計	350※4	200	200	100	200		150	1200	
		100		200					
	200	200	350※4	100	200	350※4			
		100		200					
センター試験	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200			900	
個別学力検査							200	200	
計	200	200 100	200	100 200	200		200	1100	

◎36～41 ページの「大学入試センター試験・個別学力検査、その他の注意事項」も確認してください。

学部・課程・学科等名及び入学定員等 〔平成28年度〕 志願倍率	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査		2段階選抜					
		教科	科目名等	教科等	科目名等						
経済学部 (改組予定) 〔3.6〕 290人 前期 120 後期 80 AO 25 推薦 65	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 事業共創学科	前期 2月25日	国	国	数外	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・ 英表Ⅰ・英表Ⅱ } から1 ※6 ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」					
			地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※2							
			公民	現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から2 ※2							
			数	数Ⅰ, 数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ, 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1							
		後期 3月12日	理	①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1 } ①又は②							
			外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7～8科目又は6教科7～8科目〕							
			国	国	その他	小論文					
			地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※2							
公民	現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から2 ※2										
数	数Ⅰ, 数Ⅰ・数A, 数Ⅱ, 数Ⅱ・数B, 簿, 情報 } から1 ※5										
医学部 〔4.4〕 160人 前期 100 後期 10 AO 35 推薦 15	医学科 100人 前期 65 AO 35	前期 2月25日 と26日	国	国	数理 外 その他	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物 化基・化 } から2 生基・生 コ英Ⅰ・コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ 面接 ※数Bは「数列、ベクトル」	約3倍				
			地歴	世B, 日B, 地理B } から1 ※7							
			公民	倫・政経 } から1 ※7							
			数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1							
	看護学科 60人 前期 35 後期 10 推薦 15	前期 2月25日	理	物, 化, 生から2	その他	小論文		約6倍			
			外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕							
		後期 3月12日	国	国					その他	面接	約7倍
			地歴	世B, 日B, 地理B } から1 ※7							
			公民	倫・政経 } から1 ※7							
			数	数Ⅰ・数A, 数Ⅱ・数B, 簿, 情報 } から1 ※5							
後期 3月12日	理	物, 化, 生から1 ※8	その他	面接	約7倍						
	外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科5科目〕									

※2 「地理歴史」においては、同一名称のA・B出題科目、「公民」においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。

※5 「数学」の科目において、2科目受験した場合は、高得点のものを合否判定に使用します。

※6 個別学力検査及び計の〔 〕と< >で示した配点は、個別学力検査で選択した教科の得点を合否判定に使用します。

※7 「地理歴史」及び「公民」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。なお、第1解答科目が大学の指定した科目でなかった場合は、出願資格を満たさないこととなりますので、第1解答科目は、必ず大学が指定する科目の中から選択してください。

※8 「理科」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を合否判定に使用します。なお、第1解答科目が大学の指定した科目でなかった場合は、出願資格を満たさないこととなりますので、第1解答科目は、必ず大学が指定する科目の中から選択してください。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等									その他の 入試方法等
試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点 合計	
センター試験	100	100×2	100×2	①(50×2) ②(100)	200			800	AO入試 推薦 帰国子女 社会人 私費外国人 追加合格
個別学力検査			[200]×6		<200>×6			200	
計	100	200	[400]×6 <200>	100	[200] <400>×6			1000	
センター試験	100	100×2	100		100			500	
個別学力検査						200		200	
計	100	200	100		100	200		700	
センター試験	100	50	50×2	50×2	100			450	
個別学力検査			100	100×2	100		200	600	
計	100	50	200	300	200		200	1050	
センター試験	100	50	100	100	100			450	
個別学力検査						100		100	
計	100	50	100	100	100	100		550	
センター試験	100	50	100	100	100			450	
個別学力検査							100	100	
計	100	50	100	100	100		100	550	

◎36～41 ページの「大学入試センター試験・個別学力検査、その他の注意事項」も確認してください。

学部・課程・学科等名及び入学定員等 〔平成28年度〕 〔志願倍率〕	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査		
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜
理工学部 (設置予定) [4.1] 385人 前期 248 後期 67 推薦 51 AO 19 創生工学科 機械コース 75人 前期 44 後期 15 推薦 13 AO 3 電気電子 コース 75人 前期 52 後期 10 推薦 11 AO 2	前期	国	国	数理	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物 ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」	
	2月25日	地歴 公民	世B, 日B, 地理B 倫・政経 } から1 ※7			
	後期	国	国	その他	面接	
	3月12日	地歴 公民	世B, 日B, 地理B 倫・政経 } から1 ※7			
共創理工学科 数理科学 コース 15人 前期 11 後期 2 推薦 2 知能情報システムコース 65人 前期 41 後期 10 推薦 9 AO 5 自然科学 コース 15人 前期 10 後期 3 推薦 2 応用化学 コース 55人 前期 37 後期 10 推薦 6 AO 2	前期	国	国	数理	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B 物基・物 化基・化 生基・生 } から1 ※数Aは「場合の数と確率、図形の性質」 数Bは「数列、ベクトル」	
	2月25日	地歴 公民	世B, 日B, 地理B 倫・政経 } から1 ※7			
	後期	国	国	その他	面接	
	3月12日	地歴 公民	世B, 日B, 地理B 倫・政経 } から1 ※7			

※7 「地理歴史」及び「公民」の科目において、2科目受験した場合は、第1解答科目の得点を可否判定に使用します。なお、第1解答科目が本学の指定した科目でなかった場合は、出願資格を満たさないこととなりますので、第1解答科目は、必ず本学が指定する科目の中から選択してください。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等									その他の 入試方法等
試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点 合計	
センター試験	150	75	50×2	50×2	200			625	AO入試 推薦 帰国子女 私費外国人 追加合格
個別学力検査			200	200				400	
計	150	75	300	300	200			1025	
センター試験	125	75	150×2	100×2	200			900	
個別学力検査							200	200	
計	125	75	300	200	200		200	1100	
センター試験	150	75	50×2	50×2	200			625	AO入試 推薦 帰国子女 私費外国人 追加合格
個別学力検査			200	200				400	
計	150	75	300	300	200			1025	
センター試験	125	75	150×2	100×2	200			900	
個別学力検査							200	200	
計	125	75	300	200	200		200	1100	

◎36～41 ページの「大学入試センター試験・個別学力検査、その他の注意事項」も確認してください。

学部・課程・学科等名及び入学定員等 〔平成28年度〕 〔志願倍率〕	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	
福祉健康科学部 [4.2] 100人 前期 78 後期 16 推薦 6	理学療法コース 30人 前期 25 後期 5 推薦 -	前期 2月25日	国	国	その他 その他	小論文 面接	約3倍
			地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1 ※9			
			公民	現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から1 ※9			
	後期 3月12日	数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1	③又は④	その他 その他	小論文 面接	約10倍
		理	③物基, 化基, 生基, 地基から2と 物, 化, 生, 地学から1 ※10 ④物, 化, 生, 地学から2				
		外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7～8科目]				
社会福祉実践コース 35人 前期 23 後期 6 推薦 6	前期 2月25日	国	国	その他 その他	小論文 面接	約3倍	
		地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から2 ※2				
		公民	現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から2 ※2				
	後期 3月12日	数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1	①又は②	その他 その他	小論文 面接	約10倍
		理	①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1				
		外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7～8科目又は6教科7～8科目]				
心理学コース 35人 前期 30 後期 5 推薦 -	前期 2月25日	国	国	その他 その他	小論文 面接	約3倍	
		数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B, 簿, 情報から1				
		地歴	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1又は2				
	後期 3月12日	公民	現社, 倫, 政経, 倫・政経 } ※2	※1	その他 その他	小論文 面接	約10倍
		理	①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1 ③物基, 化基, 生基, 地基から2と 物, 化, 生, 地学から1 ※3 ④物, 化, 生, 地学から2				
		外	英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7～8科目又は6教科7～8科目]				

- ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②, 又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④
- ※2 「地理歴史」においては, 同一名称のA・B出題科目, 「公民」においては, 同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- ※3 「理科」において, 同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は, 「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は, 出願資格を満たさないこととなります。
- ※9 「地理歴史」及び「公民」の科目において, 2科目受験した場合は, 第1解答科目の得点を合否判定に使用します。
- ※10 「理科」においては, 同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は, 出願資格を満たさないこととなります。

大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等									その他の入試方法等
試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	小論文	面接	配点 合計	
センター試験	200	100	100×2	③(50×2+100) ④(100×2)	200			900	追加合格
個別学力検査						300	100	400	
計	200	100	200	200	200	300	100	1300	
センター試験	200	100	100×2	③(50×2+100) ④(100×2)	200			900	追加合格
個別学力検査						100	300	400	
計	200	100	200	200	200	100	300	1300	
センター試験	200	100×2	100×2	①(50×2) ②(100)	200			900	推薦 追加合格
個別学力検査						300	100	400	
計	200	200	200	100	200	300	100	1300	
センター試験	200	100×2	100×2	①(50×2) ②(100)	200			900	追加合格
個別学力検査						100	300	400	
計	200	200	200	100	200	100	300	1300	
センター試験	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200			900	追加合格
個別学力検査						100	300	400	
計	200	200 100	200	100 200	200	100	300	1300	
センター試験	200	(100×2) (100)	100×2	①(50×2) ②(100) ③(50×2+100) ④(100×2)	200			900	追加合格
個別学力検査						300	100	400	
計	200	200 100	200	100 200	200	300	100	1300	

◎大学入試センター試験・個別学力検査，その他の注意事項

全学部共通事項

【大学入試センター試験について】

- (1) 「英語」にはリスニングテストを含みます。リスニングテストを受験しなかった場合は、出願資格はありません（リスニングテストを免除された者は除く）。
「英語」の成績は、筆記試験とリスニングテストの合計点を 200 点満点に圧縮し、他の外国語と比較できるようにします。なお、入学者選抜の配点にあたっては、28～35 ページの表に記載している大学入試センター試験の外国語の配点に換算します。ただし、リスニングテストを免除された者については、筆記試験（200 点満点）の得点のみを利用します。
- (2) 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校もしくは中等教育学校において、これらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。

【その他】

- (1) 入学者の選抜は、大学入試センター試験、個別学力検査及び出身高等学校長等が作成した調査書等に基づいて総合判定します。
- (2) 大学入試センター試験で本学が指定する教科・科目を受験しなかった場合は、出願資格はありません。なお、本学では平成 29 年度の入学試験において、大学入試センター試験の前年度以前の成績は利用しません。
- (3) 個別学力検査で必要な教科・科目を受験しなかった場合は 0 点ではなく、不合格となります。

教育学部

【大学入試センター試験について】

・大学入試センター試験の（ ）で示した配点の取り扱いは次のとおりです。

教科	科目名等	配点の取扱い																	
地歴 公民 理	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1又は2 現社, 倫, 政経, 倫・政経 ※2 ①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1 ③物基, 化基, 生基, 地基から2と 物, 化, 生, 地学から1 ※3 ④物, 化, 生, 地学から2 ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」 の①もしくは②, 又は「地理歴史」及び「公民」 から1科目と「理科」の③もしくは④ ※2 「地理歴史」においては, 同一名称のA・B 出題科目, 「公民」においては, 同一名称を 含む出題科目同士の選択はできません。 ※3 「理科」において, 同一名称を含む出題科目 同士を選択していた場合は, 「基礎を付した 科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科 目」の得点のうち高得点の得点のみを使用 します。「地理歴史」及び「公民」で1科目し か受験していない場合は, 出願資格を満た さないこととなります。	「地理歴史」及び「公民」を2科目受験し, 理科の科目において, (a) 「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」 1科目を受験した場合は,																	
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">+</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">+</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">} 高得点の2つ</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">=</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">合否判定に使用する得点</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: center;">理科の「基礎を付さない科目」の得点</td> <td colspan="2"></td> <td></td> </tr> </table>	「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点	+	「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点	+	理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点	} 高得点の2つ	=	合否判定に使用する得点					理科の「基礎を付さない科目」の得点				
		「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点	+	「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点	+	理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点	} 高得点の2つ	=	合否判定に使用する得点										
				理科の「基礎を付さない科目」の得点															
ただし, 理科の科目において同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は,	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">+</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">+</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">} 高得点のもの</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">=</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">合否判定に使用する得点</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: center;">理科の「基礎を付さない科目」の得点</td> <td colspan="2"></td> <td></td> </tr> </table>	「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点	+	「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点	+	理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点	} 高得点のもの	=	合否判定に使用する得点					理科の「基礎を付さない科目」の得点					
「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点	+	「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点	+	理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点	} 高得点のもの	=	合否判定に使用する得点												
				理科の「基礎を付さない科目」の得点															
		(b) 「基礎を付さない科目」を2科目受験した場合は,																	
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">+</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">理科の「基礎を付さない科目」の第1解答科目の得点</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">+</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">} 高得点のもの</td> <td style="width: 5%; text-align: center;">=</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">合否判定に使用する得点</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: center;">理科の「基礎を付さない科目」の第2解答科目の得点</td> <td colspan="2"></td> <td></td> </tr> </table>	「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点	+	理科の「基礎を付さない科目」の第1解答科目の得点	+	「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点	} 高得点のもの	=	合否判定に使用する得点					理科の「基礎を付さない科目」の第2解答科目の得点				
「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点	+	理科の「基礎を付さない科目」の第1解答科目の得点	+	「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点	} 高得点のもの	=	合否判定に使用する得点												
				理科の「基礎を付さない科目」の第2解答科目の得点															

【個別学力検査について】

前期日程

- (1) 国語, 数学, 外国語から試験開始後に1教科を選択して受験してください。
- (2) 面接は, コースごとに, 集団面接を行います。集団面接は, 集団討論の方式で実施します。

後期日程

- ・面接は, コースごとに, 集団面接を行います。集団面接は, 集団討論の方式で実施します。

【同点者について】

- ・それぞれの入試区分において同点者がいる場合は, 大学入試センター試験の高得点者を高順位とします。

経済学部（改組予定）

【大学入試センター試験について】

・大学入試センター試験の（ ）で示した配点の取り扱いは次のとおりです。

教科	科目名等	配点の取扱い
理	①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1 } ①又は②	<p>前期日程の理科の科目において、</p> <p>(a) 「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を受験した場合は、</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">理科の「基礎を付さない科目」の得点</div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高得点のものを合否判定に使用</div> </div> <p>(b) 「基礎を付さない科目」を2科目受験した場合は、</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">第1解答科目</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">第2解答科目</div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第1解答科目の得点を合否判定に使用</div> </div>

【個別学力検査について】

前期日程

・個別学力検査等の配点等の〔 〕と< >で示した配点は、個別学力検査で選択した科目の得点を合否判定に使用します。

後期日程

・小論文は、高等学校の段階における総合的な学力到達度を検査する大学入試センター試験を補うものとして、次の資質をみようとするものであり、広く社会科学的素材に基づく出題を行います。ただし、専門的知識・用語は必要としません。

- (a) 理解力（あるいは大意把握力） (b) 論理的思考力 (c) 表現力

医学部

【第1段階選抜について】

・医学科及び看護学科において、入学志願者が著しく多い場合は、大学入試センター試験の成績（傾斜後の得点）により、次のとおり第1段階選抜を行います。

前期日程

・医学科は募集人員の約3倍、看護学科は募集人員の約6倍までを合格者とし、その合格者に対して個別学力検査等を実施します。

後期日程

・看護学科は募集人員の約7倍までを合格者とし、その合格者に対して個別学力検査等を実施します。

【個別学力検査について】

前期日程

- (1) 医学科において、理科の科目は、試験開始後に2科目を選択してください。
- (2) 医学科において、理科の出題範囲は次のとおりです。
 - (ア) 物理は、「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - (イ) 化学は、「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
 - (ウ) 生物は、「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。

- (3) 医学科の面接は、医学を学ぶための適性、コミュニケーション能力、学習意欲などを総合的に評価します。なお、面接の評価が著しく低い場合には、総合得点に関わらず不合格とします。
- (4) 看護学科の小論文は、課題式や資料式の小論文を出題し、論理的思考力、表現力、読解力及び看護学を学ぶための適性を評価します。

後期日程

- ・看護学科の面接は、看護学を学ぶための適性、コミュニケーション能力、学習意欲・倫理観等を総合的に評価します。

【同点者について】

前期日程

- ・同点者がいる場合は、医学科は大学入試センター試験の数学Ⅰ・数学Aの高得点者、大学入試センター試験の外国語の高得点者の順、看護学科は大学入試センター試験の数学の高得点者を高順位とします。

後期日程

- ・同点者がいる場合は、大学入試センター試験の数学の高得点者を高順位とします。

理工学部（設置予定）

【個別学力検査について】

前期日程

- (1) 理科の出題範囲は次のとおりです。
 - (ア) 物理は、「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - (イ) 化学は、「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
 - (ウ) 生物は、「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。
- (2) 前期日程において、第1志望の学科・コースに必要な個別学力検査受験科目（理科）を受験していない場合は、第1～第3志望とも判定の対象になりません。
- (3) 前期日程及び後期日程とも、共創理工学科の各コースを第1志望にして、創生工学科の各コースを第2志望又は第3志望にする場合は、大学入試センター試験で「物理」を選択していることが必要です。

後期日程

- (1) 後期日程の面接では志願学科・コースやそれに関わる分野への関心、意欲、理解、積極性、自己表現力をみます。
- (2) 前期日程及び後期日程とも、共創理工学科の各コースを第1志望にして、創生工学科の各コースを第2志望又は第3志望にする場合は、大学入試センター試験で「物理」を選択していることが必要です。

【大学入試センター試験について】

・大学入試センター試験の（ ）で示した配点の取り扱いは次のとおりです。

教科	科目名等	配点の取扱い
理	①物基, 化基, 生基, 地基から2 ②物, 化, 生, 地学から1 } ①又は②	理科の科目において, (a) 「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を受験した場合は, <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">理科の「基礎を付さない科目」の得点</div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高得点のものを合否判定に使用</div> </div> (b) 「基礎を付さない科目」を2科目受験した場合は, <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">第1解答科目</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">第2解答科目</div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第1解答科目の得点を合否判定に使用</div> </div>
地歴 公民 理	世A, 世B, 日A, 日B, 地理A, 地理B } から1又は2 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } ※2 ①物基, 化基, 生基, 地基から2 } ※1 ②物, 化, 生, 地学から1 } ③物基, 化基, 生基, 地基から2と } 物, 化, 生, 地学から1 } ※3 ④物, 化, 生, 地学から2 } ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②, 又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④ ※2 「地理歴史」においては, 同一名称のA・B出題科目, 「公民」においては, 同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。 ※3 「理科」において, 同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は, 「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は, 出願資格を満たさないこととなります。	「地理歴史」及び「公民」を2科目受験し, 理科の科目において, (a) 「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を受験した場合は, <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点</div> <div style="font-size: 2em;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点</div> <div style="font-size: 2em;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点</div> <div style="font-size: 2em;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">理科の「基礎を付さない科目」の得点</div> <div style="font-size: 2em;">=</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高得点の2つ = 合否判定に使用する得点</div> </div> ただし, 理科の科目において同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は, <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点</div> <div style="font-size: 2em;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点</div> <div style="font-size: 2em;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">理科の「基礎を付した科目」2科目の合計点</div> <div style="font-size: 2em;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">理科の「基礎を付さない科目」の得点</div> <div style="font-size: 2em;">=</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高得点のもの = 合否判定に使用する得点</div> </div> (b) 「基礎を付さない科目」を2科目受験した場合は, <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">「地理歴史」及び「公民」の第1解答科目の得点</div> <div style="font-size: 2em;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">理科の「基礎を付さない科目」の第1解答科目の得点</div> <div style="font-size: 2em;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">「地理歴史」及び「公民」の第2解答科目の得点</div> <div style="font-size: 2em;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 10px;">理科の「基礎を付さない科目」の第2解答科目の得点</div> <div style="font-size: 2em;">=</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高得点のもの = 合否判定に使用する得点</div> </div>

【第1段階選抜について】

各コースにおいて、入学志願者が著しく多い場合は、大学入試センター試験の成績（傾斜後の得点）により、次のとおり第1段階選抜を行います。

前期日程

- ・各コースの募集人員の約3倍までを合格者とし、その合格者に対して個別学力検査等を実施します。

後期日程

- ・各コースの募集人員の約10倍までを合格者とし、その合格者に対して個別学力検査等を実施します。

【個別学力検査について】**前期日程・後期日程**

- ・個別学力検査では、小論文及び面接を全員に課します。小論文では論理的思考力、表現力（文章構成を含む）を、面接ではコミュニケーション能力、協調性、積極性などをみます。なお、面接の得点が、面接の配点の20%以下の場合には、総合得点に関わらず不合格とします。

【同点者について】

- ・それぞれの入試区分において同点者がいる場合は、大学入試センター試験の高得点者を高順位とします。

推薦入試募集人員

学部	課程・学科・コース		推薦区分	募集人員	推薦人員	
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース		25	各高等学校等から5名以内	
		特別支援教育コース		5	制限なし	
	計			30		
(改組予定) 経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 事業共創学科		普通推薦	45	各高等学校等から4名以内	
			商業推薦	20	制限なし	
	計			65		
医学部	看護学科			15	各高等学校等から3名以内	
	計			15		
(設置予定) 理工学部	創生工学科	機械コース	一般推薦	11	各高等学校等から4名以内	
			サイエンス推薦	2	制限なし	
		電気電子コース	一般推薦	9	各高等学校等から3名以内	
			サイエンス推薦	2	制限なし	
	福祉メカトロニクスコース	一般推薦	6	制限なし		
		サイエンス推薦	2	制限なし		
	共創理工学科	数理科学コース		サイエンス推薦	2	制限なし
		知能情報システムコース	一般推薦	7	各高等学校等から3名以内	
			サイエンス推薦	2	制限なし	
		自然科学コース		サイエンス推薦	2	制限なし
		応用化学コース	一般推薦	4	制限なし	
			サイエンス推薦	2	制限なし	
計			51			
福祉健康科学部	福祉健康科学科	社会福祉実践コース	普通推薦	5	各高等学校等から2名以内	
			福祉推薦	1	各高等学校等から2名以内	
	計			6		
合計				167		

【注】経済学部は、入学後に所属学科を決定します。

推薦入試 I (大学入試センター試験を課さない)

〈経済学部〔改組予定〕・医学部(看護学科)・理工学部〔設置予定〕・福祉健康科学部〉

① 推薦要件

次の各号に該当する者で、高等学校長、中等教育学校長、特別支援学校長及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等の長が責任をもって推薦できる者

- (1) 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等(以下「高等学校等」という。)を平成29年3月卒業見込みの者(外国の高等学校に留学のため、平成28年4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含む。)
- (2) **合格した場合は、入学することを確約できる者**
- (3) 次表の各学部・学科・コースの掲げる推薦要件を満たす者

学部	学 科 ・ コ ー ス	推薦区分	推 薦 要 件
経 済 学 部 (改 組 予 定)	経 済 学 科 経 営 シ ス テ ム 学 科 地 域 シ ス テ ム 学 科 事 業 共 創 学 科	普通推薦	(1) 高等学校等の普通科又はその他の学科で本学が普通科に準ずると認める学科・課程(いわゆる職業教育を主とする学科以外の学科)を卒業見込みの者 (2) 調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (3) 校内外を問わず自主的勉学ないし活動において特に優れた成果をあげている者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
		商業推薦	(1) 高等学校等の商業に関する学科・課程又はその他の学科を卒業見込みの者。ただし、 商業に関する学科・課程以外 を卒業見込みの者については、 商業に関する教科・科目を20単位以上 修得した(見込みを含む。)者 (2) 高等学校等の3年次における成績が 上位10%以内 の者 (3) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
医 学 部	看 護 学 科		(1) 高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 ※④に該当する者については、調査書に④と表示してください。 (2) 看護職者あるいは看護学研究者として活躍しようとする、はっきりした目的意識を持ち、他者への思いやりと共感、生涯学習への意志と体力を持った者

学部	学 科 ・ コ ー ス		推薦区分	推 薦 要 件	
理 工 学 部 (設 置 予 定)	創 生 工 学 科	機械コース	一般推薦	(1) 本コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等において「物理」を履修している者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	
		電気電子コース		(1) 本コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等において「物理」を履修している者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者、又は特に「物理」が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	
		福祉メカトロニクスコース		(1) 本コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等において「物理」を履修している者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	
	共 創 理 工 学 科	知能情報システムコース		(1) 本コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等において「物理」又は「化学」を履修している者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	
		応用化学コース		(1) 本コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等において「物理」又は「化学」を履修している者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者	
	創 生 工 学 科	機械コース 電気電子コース 福祉メカトロニクスコース		サイエンス 推薦	(1) 科学に関する特別活動に取り組んだ経験のある者 (2) 志望するコースへの専攻の意志が強い者
	共 創 理 工 学 科	数理科学コース 知能情報システムコース 自然科学コース 応用化学コース			

学部	学 科 ・ コ ー ス		推薦区分	推 薦 要 件
福 祉 健 康 科 学 部	福祉健康科学科	社会福祉実践コース	普通推薦	(1) 本コースへの専攻の意志が強い者 (2) 調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (3) 人物的に優れ、かつ、福祉の専門職として、地域に貢献し、社会に役立ちたいという意志を有する者
			福祉推薦	(1) 本コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 福祉に関する学科・課程又はその他の学科 を卒業見込みの者。ただし、次のいずれかに該当する者 ① 文部科学省が指定する「福祉系高等学校等」「特例高等学校等」において「 教科福祉 」に含まれる科目を 12 単位以上 修得した（見込みを含む。）者 ② ①以外の高等学校等で福祉関係のコースや課程，系列において、 福祉に関する科目を 12 単位以上 修得した（見込みを含む。）者 (3) 調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (4) 人物的に優れ、かつ、福祉の専門職として、地域に貢献し、社会に役立ちたいという意志を有する者

② 配点

学 部	学科・コース・推薦別等	小論文	基礎能力試験	面 接			志望理由書	推薦書	調査書	合 計
				プレゼンテーション	個人面接	集団面接				
経済学部 (改組予定)	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 事業共創学科	60				60	30			150
医学部	看護学科	100				100				200
理工学部 (設置予定)	一般推薦		300			150		50		500
	サイエンス推薦			450			50		500	
福祉健康 科学部	福祉健康 科学科 社会福祉 実践コース	100			100				200	

【注】必要な検査項目を受験しなかった場合は、0点でなく、不合格となります。

③ 選抜方法、面接、採点・評価等

大学入試センター試験を免除し、各検査項目、志望理由書、推薦書及び調査書に基づいて総合判定します。

【経済学部（改組予定）】

調査書、志望理由書、推薦書、小論文及び面接を総合的に評価し合格者を決定します。

(1) 面接

- ・面接は、課題についてのグループによるディスカッション方式で行います。

(2) 採点・評価

- ・小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。
- ・面接では、積極性や理解力、自己表現能力をみます。
- ・調査書、志望理由書、推薦書等の提出書類では、高等学校等での活動や本学入学後の勉学意欲についてみます（志望理由書は、内容とその表現の両方を評価します）。

【医学部看護学科】

小論文及び面接（個人面接及び集団面接）により合格者を決定します。調査書、高等学校長等の推薦書及び自己推薦書は、参考資料として用います。

なお、同点者がいる場合は、面接の高得点者を高順位とします。

(採点・評価)

- ・小論文においては、課題式や資料式問題について解答を求め、理解力、統合力、思考力、表現力、独創性、論理性などを評価します。
- ・個人面接においては、看護学を学ぶための適性、コミュニケーション能力、学習意欲、自己理解力などを総合的に評価します。
- ・集団面接においては、コミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性などを総合的に評価します。

【理工学部（設置予定）】

一般推薦

基礎能力試験，面接，推薦書及び調査書を総合的に評価して合格者を決定します。志望理由書は参考資料として用います。

基礎能力試験では，高等学校等で学習する内容に関する学力，及び科学的思考能力を見ます。推薦書及び調査書では，高等学校等での学習及び課外活動状況について見ます。

面接は集団面接で行い，提出書類も参考にして，志望する学科・コースやそれに関わる分野への関心・意欲・理解，及び今後の目標，本学入学後の勉学意欲などについて見るとともに積極性，自己表現力を見ます。また，志望する学科・コースで必要となる，高等学校等で学習した内容に関する基礎的な学力及び科学的思考能力を判定する試問も含むことがあります。また，集団面接ではグループ討論は行いません。面接員からの質問に一人ずつ答えてもらいます。質問は全員に同じ場合と，別々の場合があります。

サイエンス推薦

科学に関する活動実績を示す資料（発表会・報告会資料等），プレゼンテーション，面接，志望理由書，推薦書及び調査書を総合的に評価して合格者を決定します。

推薦書及び調査書では，高等学校等での学習及び課外活動状況について見ます。

プレゼンテーションでは，科学に関する活動についての発表と，それらに関する質疑応答を行い，理解・自己表現力を見ます。

面接は個人面接で行い，提出書類も参考にして，志望する学科・コースやそれに関わる分野への関心・意欲・理解，及び今後の目標，本学入学後の勉学意欲などについて見るとともに積極性，自己表現力を見ます。また，志望する学科・コースで必要となる，高等学校等で学習した内容に関する基礎的な学力及び科学的思考能力を判定する試問も含みます。

【福祉健康科学部】

小論文及び面接（個人面接）を総合的に評価し，合格者を決定します。志望理由書，推薦書，調査書は，参考資料として用います。

（採点・評価）

- ・小論文では，読解力，論理的思考力，表現力などを評価します。
- ・面接では，コミュニケーション力，積極性，リーダーシップなどを評価します。

④ 出願期間 平成 28 年 11 月 1 日（火）～ 4 日（金）

⑤ 試験日 平成 28 年 11 月 16 日（水）

⑥ 合格者発表 平成 28 年 11 月 29 日（火）

推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

〈教育学部〉

① 推薦要件

次の各号に該当する者で，高等学校長，中等教育学校長，特別支援学校長及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等の長が責任をもって推薦できる者

- (1) 高等学校，中等教育学校，特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等（以下「高等学校等」という。）を平成29年3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため，平成28年4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含む。）
- (2) **合格した場合は，入学することを確約できる者**
- (3) 次表の各コースの掲げる推薦要件を満たす者

学部	課程・コース		推薦要件
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	人物的に優れ，かつ，小学校教育に対する意欲と情熱を有し，教員としての適性がある者
		特別支援教育コース	人物的に優れ，かつ，特別支援教育に対する意欲と情熱を有し，教員としての適性がある者

② 試験日及び大学入試センター試験指定教科・科目等

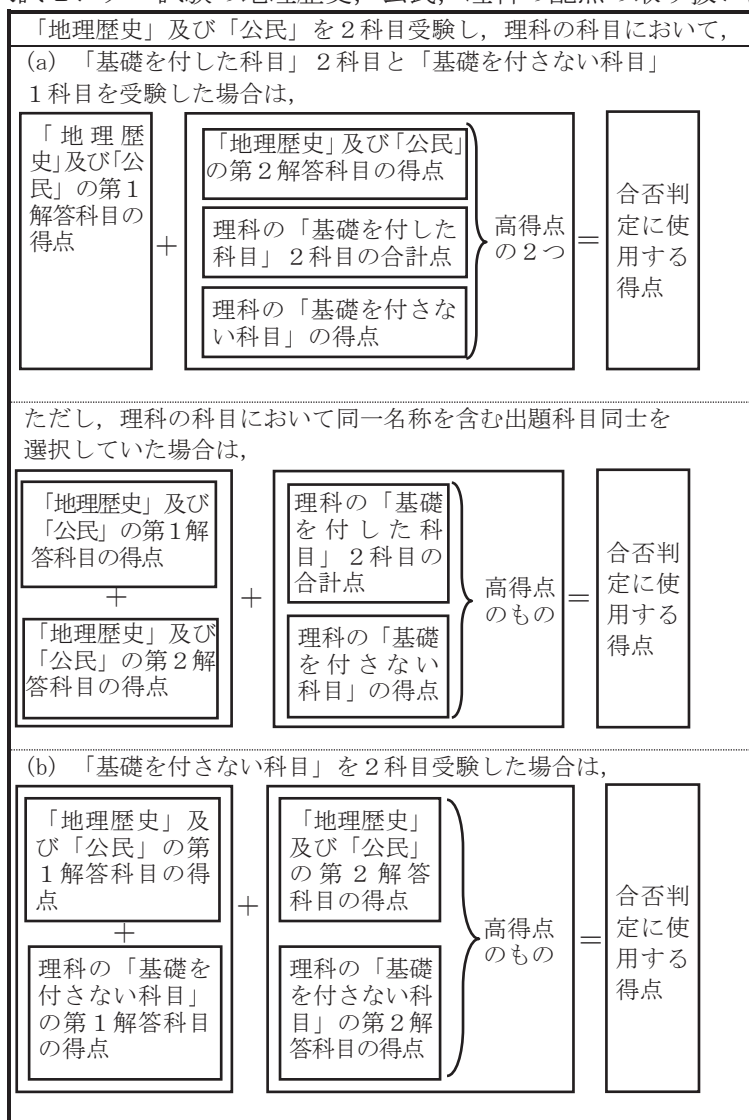
(1) 面接試験日：平成28年11月16日（水）

(2) 大学入試センター試験日：平成29年1月14日（土），15日（日）

学部	課程・コース	大学入試センター試験指定教科・科目名	
		教科	科目名等
教育学部	学校教育教員養成課程 小学校教育コース	国語	「国語」
		数学	「数学Ⅰ・数学A」 「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」から1
		地理歴史	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」
		公民 理科	「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理，政治・経済」 ①「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2 ②「物理」「化学」「生物」「地学」から1 ③「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2と 「物理」「化学」「生物」「地学」から1 ※3 ④「物理」「化学」「生物」「地学」から2
	特別支援教育コース	公民 理科	①「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2 ②「物理」「化学」「生物」「地学」から1 ③「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2と 「物理」「化学」「生物」「地学」から1 ※3 ④「物理」「化学」「生物」「地学」から2
		外国語	「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」から1
[5教科7～8科目又は6教科7～8科目]			

- ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②，又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④
- ※2 「地理歴史」においては，同一名称のA・B出題科目，「公民」においては，同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- ※3 「理科」において，同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は，「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は，出願資格を満たさないこととなります。

(ア) 大学入試センター試験の地理歴史，公民，理科の配点の取り扱いは次のとおりです。



(イ) 「英語」にはリスニングテストを含みます。リスニングテストを受験しなかった場合は，受験資格はありません（リスニングテストを免除された者は除く）。「英語」の成績は，筆記試験とリスニングテストの合計点を200点満点に圧縮し，他の外国語と比較できるようにします。ただし，リスニングテストを免除された者については，筆記試験（200点満点）の得点のみを利用します。

(ウ) 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択解答できる者は，高等学校もしくは中等教育学校において，これらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。

③ 配点

学部	課程・コース	大学入試 センター 試験	面接		志望 理由書	推薦書	調査書	合計
			個人 面接	集団 面接				
教育学部	学校教育教員養成課程 小学校教育コース	900	300	300				1500
	特別支援教育コース	900	300	300				1500

【注】面接は、個人面接と集団面接を行います。志願者数によっては集団面接を行わないことがあります。集団面接を行わない場合は、個人面接の配点を600点として大学入試センター試験と合わせて1500点で合否判定を行います。

④ 選抜方法、面接、採点・評価等

大学入試センター試験、面接、志望理由書、推薦書及び調査書を総合的に評価し、合格者を決定します。

(1) 面接

- ・複数の面接委員により、個人面接では当該コースへの関心、意欲、理解力及び自己表現力などをみます。集団面接では、出題されたテーマ・課題について、集団で討議を行い、そのテーマに対する理解力、自身の考え・意見の表現力ならびに他者の意見に対する理解力等コミュニケーションに対する能力などをみます。

(2) 調査書等

- ・志望理由書、推薦書、調査書は面接の参考にします。

⑤ 同点者の取り扱い

総得点が同点の場合は、大学入試センター試験の高得点者を高順位とします。

⑥ 出願期間 平成28年11月1日(火)～4日(金)

⑦ 合格者発表 平成29年2月8日(水)

アドミッション・オフィス入試(AO入試)

〔経済学部〕〔英語資格・簿記資格に基づく選抜制度〕

〔AO入試〕

<p>実施学部 学 科 名</p>	<p>経済学部（改組予定）</p> <p>経済学科 経営システム学科 地域システム学科 事業共創学科</p> <p style="text-align: right;">【注】</p>
<p>募集人員</p>	<p>20名（英語資格 5名，簿記資格 15名）</p>
<p>〔出願資格〕</p> <p>次の（１）に該当する者で，かつ（２）の要件を満たし，入学試験に合格した場合は入学することを確約できる者です。</p> <p>（１）高等学校，中等教育学校，特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため，平成28年4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で，調査書の履修科目全体の評定平均値が3.5以上の者</p> <p>（２）次のいずれかの資格を有する者</p> <p>英語資格：実用英語技能検定（英検）2級以上 TOEICスコア480点以上 GTEC for STUDENTSスコア580点以上又はGTEC CBT スコア850点以上</p> <p>簿記資格：日本商工会議所簿記検定試験（日商簿記）2級以上</p>	
<p>選 抜 方 法 等</p>	<p>大学入試センター試験と個別学力検査を免除し，小論文，面接及び提出書類を総合して選抜します。選抜方法は2段階選抜とします。</p> <p>（１）第1次選考 自己推薦書及び調査書により選抜します。 自己推薦書及び調査書では，高等学校等での学習活動（高大接続関連事業による学習活動を含む。），取得資格に関わる活動状況や今後の目標，本学入学後の勉学意欲等についてみます。 ※第1次選考の合格者数は，英語資格・簿記資格とも募集人員の3倍程度とします。</p> <p>（２）第2次選考 第1次選考の合格者を対象に，小論文及び個人面接により選抜します。 小論文では，社会科学的素材に基づく出題を行い，理解力（あるいは大意把握力），論理的思考力，表現力をみます。個人面接では，提出書類も参考にして，取得資格に関する能力，積極性，自己表現能力をみます。なお，英語資格の個人面接では英語での質疑応答，簿記資格の個人面接では簿記（日商簿記2級相当の内容）に関する質疑応答の時間があります。</p>
<p>出 願 期 間</p>	<p>平成28年8月17日（水）～8月23日（火）</p>
<p>選 抜 期 日 （第2次選考）</p>	<p>平成28年9月23日（金）</p>
<p>合格者発表日</p>	<p>平成28年10月14日（金）</p>

【注】所属学科は，入学後に決定します。

<p>実施学部 学 科 名</p>	<p>経済学部（改組予定） 経済学科 経営システム学科 地域システム学科 事業共創学科 【注】</p>
<p>募集人員</p>	<p>5名</p>
<p>【出願資格】 次の（１）に該当する者で、かつ（２）の要件を満たし、入学試験に合格した場合は入学することを確約できる者です。</p> <p>（１）高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を卒業した者及び平成 29 年 3 月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、平成 28 年 4 月 1 日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で、調査書の履修科目全体の評定平均値が 3.5 以上 の者</p> <p>（２）次のいずれかの要件を満たす者</p> <p>①高等学校等の総合的な学習の時間（課題研究等を含む。）等での課題探究型学習の経験者</p> <p>②大学（本学または他大学）による高校生対象の課題探究型学習の経験者</p> <p>③課題探究型学習成果コンテストの経験者</p> <p>④上記①②③のほか、「高等学校等での課題探究型学習」の経験者</p> <p>※ ③の成果コンテストの事例として、「高校生ビジネスプラン・グランプリ」（日本政策金融公庫）、「NRI 学生小論文コンテスト」（野村総合研究所）、「全国高等学校生徒商業研究発表大会」（全国商業高等学校協会）、「高校生なるほどアイデアコンテスト」（大分大学経済学部）などの各種団体や大学が主催するコンテストがあります。</p>	
<p>選 抜 方 法 等</p>	<p>大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接及び提出書類を総合して選抜します。選抜方法は２段階選抜とします。</p> <p>（１）第 1 次選考 自己推薦書、調査書及び出願資格に関わる提出物により選抜します。 自己推薦書、調査書及び出願資格に関わる提出物では、高等学校等での学習活動（高大接続関連事業による学習活動を含む。）、課題探究型学習に関わる活動状況や今後の目標、本学入学後の勉学意欲等についてみます。 ※第 1 次選考の合格者数は、募集人員の 3 倍程度とします。</p> <p>（２）第 2 次選考 第 1 次選考の合格者を対象に、小論文及び個人面接により選抜します。 小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。個人面接では、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力および主体的に学習に取り組む態度をみます。 なお、個人面接では、出願時に提出した「課題探究型学習の成果について」（書式 B）のみを用いて学習の内容を 5 分で発表してもらった後、その内容および提出書類も参考にして質疑応答を行います。</p>
<p>出 願 期 間</p>	<p>平成 28 年 8 月 17 日（水）～8 月 23 日（火）</p>
<p>選 抜 期 日 （第 2 次選考）</p>	<p>平成 28 年 9 月 23 日（金）</p>
<p>合格者発表日</p>	<p>平成 28 年 10 月 14 日（金）</p>

【注】所属学科は、入学後に決定します。

AO
入
試

実施学部 学 科 名	医学部医学科											
募集人員	35名（一般枠22名，地域枠13名）											
〔出願資格〕												
【一般枠】												
<p>高等学校，中等教育学校，特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を平成27年3月以降に卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため，平成28年4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で，大学入試センター試験の実施教科・科目のうち本学が指定した教科・科目を受験し，かつ，次の要件を満たす者です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校等における学習成績が優秀で，調査書の学習成績概評がA段階に属する者 ※④に該当する者については，調査書に④と表示してください。 2. 臨床医あるいは医学研究者として活躍しようとする，明確な目的意識を持ち，病める人々への思いやりと共感，生涯学習への意志と体力を持った者 3. 合格した場合は，入学することを確約できる者 												
【地域枠】												
上記出願資格に加え，次の要件を満たす者です。												
・大分県内の小学校又は中学校を卒業し，大学卒業後，大分県の地域医療に貢献したいという強い意志を有する者で，大分県が指定するへき地医療拠点病院で実施する体験活動（8月中の連続する3日間実施）を受けた者												
※ 一般枠と地域枠との併願は認められません。												
※ 平成26年8月又は平成27年8月に本体験活動を受け，「体験活動日誌」及び「体験活動感想文」を提出済の者については，本体験活動を再度受ける必要はありません。												
※ 本体験活動は，地域枠で出願するためにのみ実施するものです。												
選抜方法等	(1) 第1次選考 一般枠，地域枠ともに，大学入試センター試験の成績により第1次選考（一般枠，地域枠ともに募集人員の約2.5倍）を行い，第2次選考の対象者を決定します。											
	(2) 第2次選考 一般枠，地域枠ともに，面接（個人面接及び集団面接）を行い，自己推薦書，調査書，特別活動に関する調査書及び大学入試センター試験の成績を総合的に評価し，合格者を決定します。 なお，同点者がいる場合は，大学入試センター試験の総得点の高得点者，大学入試センター試験の理科の高得点者の順に高順位とします。											
	実施教科・科目等及び配点											
	大学入試センター試験の利用教科・科目名				大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							
	教科	科目名等			試験の区分	国語	地理歴史 公民	数学	理科	外国語	面接	合計
	国	国			センター試験	100	50	50×2	50×2	100		450
	地歴 公民	世B，日B，地理B 倫・政経 } から1			個別学力検査等						540	540
	数	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B			計	100	50	100	100	100	540	990
	理	物，化，生から2										
	外	英，独，仏，中，韓 から1 〔5教科7科目〕										
【注1】 「地理歴史」及び「公民」の科目において，2科目受験した場合は，第1解答科目の得点を合否判定に使用します。なお，第1解答科目が本学の指定した科目でなかった場合は， 出願資格を満たさないこと となりますので，第1解答科目は，必ず本学が指定する科目の中から選択してください。												
【注2】 「英語」はリスニングテストを含みます。筆記試験とリスニングテストの双方を受験してください（リスニングテストを免除された者は除く）。「英語」の成績は，筆記試験とリスニングテストの合計点を200点満点に圧縮し，他の外国語と比較できるようにします。なお，入学者選抜の配点にあたっては，上記の表に記載している大学入試センター試験の外国語の配点に換算します。ただし，リスニングテストを免除された者については，筆記試験（200点満点）の得点のみを利用します。												
【注3】 本学では平成29年度の入学試験において，大学入試センター試験の前年度以前の成績は利用しません。												
出 願 期 間	平成28年11月1日（火）～11月4日（金） 〔へき地医療拠点病院体験活動の申込期間（地域枠のみ）〕 平成28年7月1日（金）～7月8日（金）（土日を除く）											
選抜期日 （第2次選考）	平成29年2月5日（日） 午前の部：9時00分～ 午後の部：13時00分～											
合格者発表日	平成29年2月8日（水）											
その他	地域枠で入学した学生全員に，大分県医師修学資金が貸与されます。大学卒業後，大分県知事の指定する医療機関において，貸与を受けた期間の2分の3に相当する期間を医師として勤務した場合，全額返還を免除します。											

実施学部 学科コース名	理工学部	
	創生工学科 機械コース 電気電子コース 福祉メカトロニクスコース 建築学コース	共創理工学科 知能情報システムコース 応用化学コース
募集人員	創生工学科 機械コース 3名 電気電子コース 2名 福祉メカトロニクスコース 2名 建築学コース 5名	共創理工学科 知能情報システムコース 5名 応用化学コース 2名

[出願資格]

次の各号に該当する者

1. 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等（以下「高等学校等」という。）を平成 29 年 3 月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、平成 28 年 4 月 1 日以降、学年の途中において卒業と認められた者を含む。）
2. 合格した場合は、入学することを確約できる者
3. 次表の各学科・コースの掲げる出願要件を満たす者

創生工学科	機 械 コース	(1)本コースへの専攻の意志が強い者 (2)高等学校等の機械又は電気に関する学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者。ただし総合学科を卒業見込みの者については、工業に関する教科・科目を 20 単位以上修得した（見込みを含む）者 (3)高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A 段階に属する者
	電 気 電 子 コース	(1)本コースへの専攻の意志が強い者 (2)高等学校等の電気又は電子に関する学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者。ただし総合学科を卒業見込みの者については、工業に関する教科・科目を 20 単位以上修得した（見込みを含む）者 (3)高等学校等の学習成績が優秀な者、又は特に物理が優秀な者
	福 祉 メカトロ ニクスコース	(1)本コースへの専攻の意志が強い者 (2)高等学校等の機械系、電気系の学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者。ただし総合学科を卒業見込みの者については、機械、電気に関する教科・科目を 20 単位以上修得した（見込みを含む）者 (3)高等学校等の学習成績が優秀な者
	建 築 学コース	(1)本コースへの専攻の意志が強い者 (2)高等学校等の建築系又は土木系の学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者。ただし総合学科を卒業見込みの者については、建築又は土木に関する教科・科目を 20 単位以上修得した（見込みを含む）者 (3)高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A 段階に属する者
共創理工学科	知 能 情 報 システ ム コース	(1)本コースへの専攻の意志が強い者 (2)高等学校等の情報又は計算機に関する工業系の学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者。ただし総合学科を卒業見込みの者については、情報又は計算機に関する教科・科目 8 単位以上を含む工業に関する教科・科目を 20 単位以上修得した（見込みを含む）者 (3)高等学校等の学習成績が優秀な者
	応 用 化 学 コース	(1)本コースへの専攻の意志が強い者 (2)高等学校等の化学に関する学科・課程又は総合学科を卒業見込みの者。ただし総合学科を卒業見込みの者については、工業に関する教科・科目を 20 単位以上修得した（見込みを含む）者 (3)高等学校等の学習成績が優秀な者

AO入試

選抜方法等	<p>第1次選考</p> <p>自己推薦書，調査書及び活動報告書により選考を行います。</p> <p>自己推薦書及び調査書では，高等学校等での学習及び出席状況や，今後の目標，本学入学後の勉学意欲などについて見ます。</p> <p>活動報告書では，卒業製作，課外活動，生徒会活動，ボランティア活動のほか各種オリンピック，チャレンジ，グランプリ等への参加などの諸活動の状況や各種資格の取得，ジュニアマイスター顕彰，各種表彰などの実績を評価します。</p> <p>※第1次選考の合格者数は，各コースとも募集人員の3倍程度とします。</p> <p>第2次選考</p> <p>第1次選考に合格した者に対して，面接で試問を行うとともに学科コースによっては基礎的な筆記試験又は小論文を課します。面接は集団面接で行い，提出書類も参考にして，志望する学科・コースやそれに関わる分野への関心・意欲・理解を見るときともに積極性，自己表現力を見ます。また，志望する学科・コースで必要となる，高等学校等で学習した内容に関する基礎的な学力及び科学的思考能力を判定する筆記試験又は試問も含まれます。なお創生工学科建築学コース，共創理工学科知能情報システムコース及び応用化学コースでは，集団面接に先だって，高等学校等で学習する内容に関する学力，及び科学的思考能力を判定する基礎的な筆記試験（建築学コースと知能情報システムコース），小論文（応用化学コース）を行います。また集団面接ではグループ討論は行いません。面接員からの質問に一人ずつ答えてもらいます。質問は全員に同じ場合と，別々の場合があります。</p> <p>各コースの内容は次表のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="328 1025 1126 1335"> <thead> <tr> <th>学科</th> <th>コース</th> <th>検査項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">創生工学科</td> <td>機械</td> <td>面接</td> </tr> <tr> <td>電気電子</td> <td>面接</td> </tr> <tr> <td>福祉メカトロニクス</td> <td>面接</td> </tr> <tr> <td>建築学</td> <td>面接と筆記試験</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">共創理工学科</td> <td>知能情報システム</td> <td>面接と筆記試験</td> </tr> <tr> <td>応用化学</td> <td>面接と小論文</td> </tr> </tbody> </table> <p>配点は以下のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="328 1402 1418 1489"> <thead> <tr> <th>自己推薦書</th> <th>調査書</th> <th>活動報告書</th> <th>面接，筆記試験，小論文</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50</td> <td>50</td> <td>150</td> <td>250</td> <td>500</td> </tr> </tbody> </table>	学科	コース	検査項目	創生工学科	機械	面接	電気電子	面接	福祉メカトロニクス	面接	建築学	面接と筆記試験	共創理工学科	知能情報システム	面接と筆記試験	応用化学	面接と小論文	自己推薦書	調査書	活動報告書	面接，筆記試験，小論文	合計	50	50	150	250	500
学科	コース	検査項目																										
創生工学科	機械	面接																										
	電気電子	面接																										
	福祉メカトロニクス	面接																										
	建築学	面接と筆記試験																										
共創理工学科	知能情報システム	面接と筆記試験																										
	応用化学	面接と小論文																										
自己推薦書	調査書	活動報告書	面接，筆記試験，小論文	合計																								
50	50	150	250	500																								
出願期間	平成28年9月26日（月）～9月30日（金）																											
選抜期日 （第2次選考）	平成28年10月24日（月）																											
合格者発表日	平成28年11月10日（木）																											

帰国子女入試

実施学部 学科等名	経済学部（改組予定）	理工学部（設置予定）		
	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 事業共創学科	【注】	創生工学科 機械コース 電気電子コース 福祉メカトロニクスコース 建築学コース	共創理工学科 数理科学コース 知能情報システムコース 自然科学コース 応用化学コース
募集人員	若干名（定員内）	若干名（定員内）		
<p>〔出願資格〕</p> <p>日本の国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者であって、保護者の海外勤務等やむを得ない事情により海外に移住し、次のいずれかに該当する者です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国の正規の学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育期間を含みます。）を2015年4月1日から2017年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、外国において最終の学年を含め2年以上継続して正規の学校教育を受けているもの ただし、外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、外国において学校教育を受けた期間とはみなしません。 2. 外国及び国内において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を2015年又は2016年に授与された者で、2017年4月1日現在満18歳に達しているもの 3. 外国及び国内において、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を2015年又は2016年に授与された者で、2017年4月1日現在満18歳に達しているもの 4. 外国及び国内において、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を2015年又は2016年に授与された者で、2017年4月1日現在満18歳に達しているもの 				
選抜方法等	経済学部（改組予定）	理工学部（設置予定）		
	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、小論文、面接及び提出書類を総合して選考します。	大学入試センター試験を免除し、学力検査、面接及び提出書類を総合して選考します。 学力検査は下記のとおりです。		
		学科	創生工学科 機械コース 電気電子コース 福祉メカトロニクスコース 建築学コース	共創理工学科 数理科学コース 知能情報システムコース 自然科学コース 応用化学コース
		教科等		
		理科	「物理基礎・物理」	「物理基礎・物理」 「化学基礎・化学」 「生物基礎・生物」 } から1
英語	コミュニケーション英語Ⅰ，コミュニケーション英語Ⅱ， コミュニケーション英語Ⅲ，英語表現Ⅰ，英語表現Ⅱ			
数学	「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」 ※数学Aは「場合の数と確率，図形の性質」 ※数学Bは「数列，ベクトル」			
出願期間	2017年1月16日（月）～20日（金）			
選抜期日	2017年2月3日（金）			
合格者発表日	2017年2月13日（月）			

【注】所属学科は、入学後に決定します。

社会人入試

〔経済学部〕

〔社会人入試〕

実施学部 学科名	経済学部（改組予定）
	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 事業共創学科 【注】
募集人員	若干名（定員内）
<p>〔出願資格〕</p> <p>平成29年4月1日現在で、下記1～3に示すいずれかの基礎資格取得後、社会人経験を5年以上有する満23歳以上の者です。</p> <p>なお、社会人経験には、家事従事期間及び定職を持ち定時制、夜間又は通信制の学校（大学を含む。）に在学した期間が含まれます。</p> <p>1. 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者</p> <p>2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者</p> <p>3. 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者</p>	
選抜方法等	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、小論文、面接及び提出書類を総合して選考します。
出願期間	平成29年1月16日（月）～20日（金）
選抜期日	平成29年2月3日（金）
合格者発表日	平成29年2月13日（月）

【注】所属学科は、入学後に決定します。

〔医学部〕

〔社会人入試〕

実施学部 学科名	医学部看護学科
募集人員	若干名（定員内）
<p>〔出願資格〕</p> <p>次の各号のいずれかに該当する者のうち、平成29年4月1日現在、社会人経験4年以上を有する年齢25歳以上の者で、合格した場合は、入学することを確約できるもの</p> <p>なお、社会人経験には、家事従事期間及び定職を持ち定時制又は通信制の高等学校に在学した期間を含みます。</p> <p>1. 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者</p> <p>2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者</p> <p>3. 学校教育法施行規則第150条（第6号を除く。）の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者</p>	
選抜方法等	大学入試センター試験を免除し、出願書類、小論文及び面接を総合評価の上、合格者を決定します。
出願期間	平成28年7月19日（火）～22日（金）
選抜期日	平成28年8月19日（金）
合格者発表日	平成28年9月9日（金）

私費外国人留学生入試

実施学部 学科等名	経済学部（改組予定）	理工学部（設置予定）	
	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 事業共創学科 【注】	創生工学科 機械コース 電気電子コース 福祉メカトロニクスコース 建築学コース	共創理工学科 数理科学コース 知能情報システムコース 自然科学コース 応用化学コース
募集人員	若干名（定員内）	若干名（定員内）	

〔出願資格〕

次の1及び2をすべて満たしていること。

1. 日本国籍を有しない者で、外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び2017年3月31日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
2. 独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」（2015年度の第1回、第2回又は2016年度の第1回、第2回の成績の利用を可とするが、複数回受験した者は、出願時にいずれかを指定すること）を受験し、学部ごとに下記の要件を満たしている者

（経済学部（改組予定））

下記の経済学部で課せられている全試験科目を受験し、日本語の「聴解・聴読解」、「読解」の総得点が180点以上であること、及び総合科目と数学の得点の合計が200点以上であること。

（理工学部（設置予定））

下記の工学部で課せられている全試験科目を受験し、日本語の「聴解・聴読解」、「読解」、「記述」の総得点が5割以上であること。

日本留学試験で課す科目について

学部	学科等	利用科目	数学の選択	理科の選択	出題言語
（改組 予定） 経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 事業共創学科 【注】	日本語 総合科目 数学	コース1 （文系）	（該当なし）	日本語 又は 英語
（設置 予定） 理工学部	創生工学科 機械コース 電気電子コース 福祉メカトロニクスコース 建築学コース 共創理工学科 数理科学コース 知能情報システムコース 自然科学コース 応用化学コース	日本語 理 数 科 学	コース2 （理系）	物理 化学 生物 } から2科目	日本語 又は 英語

本学で実施する学力検査等について

学部	学 科 等	検 査 項 目
(改組予定) 経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 事業共創学科 【注】	数学又は英語から1教科 数学 「数学Ⅰ・数学Ⅱ」 英語 「コミュニケーション英語Ⅰ，コミュニケーション英語Ⅱ， コミュニケーション英語Ⅲ，英語表現Ⅰ，英語表現Ⅱ」 小論文 面接
(設置予定) 理工学部	創生工学科 機械コース 電気電子コース 福祉メカトロニクスコース 建築学コース	理 科 「物理基礎・物理」 英 語 「コミュニケーション英語Ⅰ，コミュニケーション英語Ⅱ，コミュニケーション英語Ⅲ， 英語表現Ⅰ，英語表現Ⅱ」 数 学 「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」 ※数学Aは「場合の数と確率，図形の性質」 ※数学Bは「数列，ベクトル」 面接
	共創理工学科 数理科学コース 知能情報システムコース 自然科学コース 応用化学コース	理 科 「物理基礎・物理」 「化学基礎・化学」 「生物基礎・生物」 } から1科目 英 語 「コミュニケーション英語Ⅰ，コミュニケーション英語Ⅱ，コミュニケーション英語Ⅲ， 英語表現Ⅰ，英語表現Ⅱ」 数 学 「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B」 ※数学Aは「場合の数と確率，図形の性質」 ※数学Bは「数列，ベクトル」 面接

【注】所属学科は，入学後に決定します。

出 願 期 間	2017年1月16日(月)～20日(金)
選 抜 期 日	2017年2月3日(金)
合格者発表日	2017年2月13日(月)
選 抜 方 法 等	日本留学試験並びに本学で実施する学力検査等(上記)及び出願書類を総合して選考します。

障がいのある者等の事前相談

障がいを有する等、受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性がある入学志願者については、次の要領で申し出てください。

(1) 申出期限

募集要項にて公表します。ただし、期限後に不慮の事故等により障がいのある状態になったときには、その時点ですみやかに申し出てください。

(2) 申出方法

申請書（診断書等必要書類添付）を提出してください。必要な場合は、本学において、志願者本人またはその立場を代弁しうる関係者等との面談を行います。

(3) 申出先

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地

大分大学学生支援部入試課 TEL 097-554-7471

熊本地震により被災した者、又は熊本地震により転学等をした者の事前相談

熊本地震により被災した入学志願者、又は熊本地震により転学等をした入学志願者で、本学の受験に際し特別な措置が必要な者及び修学上特別な配慮が必要な者は、次の要領で申し出てください。

(1) 申出期限

募集要項及び本学ホームページにて公表します。

(2) 申出方法

志願者本人又はその立場を代弁しうる関係者等から、直接又は電話により申し出てください。

(3) 申出先

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地

大分大学学生支援部入試課 TEL 097-554-7471

なお、熊本地震への対応に関する情報については、本学ホームページ (<http://www.oita-u.ac.jp/>) に詳細を掲載しています。

東日本大震災により被災した者、又は東日本大震災や福島原子力発電所事故により転学等をした者の事前相談

東日本大震災により被災した入学志願者、又は東日本大震災や福島原子力発電所事故により転学等をした入学志願者で、本学の受験に際し特別な措置が必要な者及び修学上特別な配慮が必要な者は、次の要領で申し出てください。

(1) 申出期限

募集要項及び本学ホームページにて公表します。

(2) 申出方法

志願者本人又はその立場を代弁しうる関係者等から、直接又は電話により申し出てください。

(3) 申出先

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地

大分大学学生支援部入試課 TEL 097-554-7471

なお、東日本大震災への対応に関する情報については、本学ホームページ (<http://www.oita-u.ac.jp/>) に詳細を掲載しています。

入試過去問題の使用について

大分大学は、「入試過去問題活用宣言」に参加を表明しています。ただし、出題科目である「数学」と「小論文」は参加しません。

(1) 本学のアドミッション・ポリシーを実現するため、必要と認める範囲で「入試過去問題活用宣言」に参加している大学で過去に出された問題を使用して出題することがあります。

なお、過去問題は必ず使用するとは限りません。

(2) 入試過去問題を使用して出題する場合は、そのまま使用することも、一部改変することもあります。また、入試過去問題を使用した場合は、入学試験終了後、受験者にわかる形で使用過去問題を公表します。

(3) 「入試過去問題活用宣言」の詳細及び参加大学の一覧は、次のホームページにて公表しています。
<http://www.nyushikakomon.jp/>

平成28年度 大分大学入学者選抜試験実施状況

選抜区分	一般入試(前期日程)				一般入試(後期日程)				推薦入試				AO入試				特別入試(帰社私)				合 計										
	募集	志願	受験	合格	入学	募集	志願	受験	合格	入学	募集	志願	受験	合格	入学	募集	志願	受験	合格	入学	募集	志願	受験	合格	入学						
教育学部	小学校教育コース	80	344	297	91	86	20	349	116	26	22	25	52	25	25							125	745	465	142	133					
	特別支援教育コース	3	15	10	3	3	2	62	27	3	2	5	11	5	5							10	88	48	11	10					
	教育学部 計	83	359	307	94	89	22	411	143	29	24	30	63	30	30							135	833	513	153	143					
経済学部	経済学科																														
	経営システム学科 地域システム学科	120	399	380	149	131	90	537	218	115	99	75	117	117	76	20	44	44	44	20	20	若干	12	11	1	1	305	1,109	770	361	327
医学部	経済学部 計	120	399	380	149	131	90	537	218	115	99	75	117	117	76	20	44	44	44	20	20	若干	12	11	1	1	305	1,109	770	361	327
	医学科 看護学科	65	218	165	68	66										35	233	85	35	34							100	451	250	103	100
工学部	機械・エネルギーシステム工学科	53	201	191	57	53	15	129	48	18	10	12	23	22	15							若干	4	3	1	1	80	357	264	91	79
	電気電子工学科	52	193	184	58	55	14	100	30	16	13	14	28	28	14							若干	1	1	0		80	322	243	88	82
	知能情報システム工学科	44	187	181	53	48	11	92	33	13	11	15	31	31	15							若干	1	1	0		70	311	246	81	74
	応用化学科	38	89	83	45	38	10	87	21	16	14	12	11	11	7							若干	3	3	3	3	60	190	118	71	62
	福祉環境工学科(建築コース)	35	111	108	38	35	10	93	28	11	9	5	11	11	6							若干	6	5	3	3	50	221	152	58	53
	福祉環境工学科(マイクロニクスコース)	16	69	66	22	19	6	38	6	6	6	8	26	26	8							若干	0				30	133	98	36	33
	工学部 計	238	850	813	273	248	66	539	166	80	63	66	130	129	65							若干	15	13	7	7	370	1,534	1,121	425	383
福祉健康科学部	理学療法コース	25	111	74	28	27	5	125	62	5	5																30	236	136	33	32
	社会福祉実践コース	23	29	29	24	23	6	23	7	7	6	6	32	32	6												35	84	68	37	35
	心理学コース	30	54	54	33	32	5	48	17	6	5																35	102	71	39	37
	福祉健康科学部 計	78	194	157	85	82	16	196	86	18	16	6	32	32	6												100	422	275	109	104
合 計	619	2,126	1,926	712	654	204	1,768	660	254	214	192	400	399	192	55	277	129	129	55	54		30	26	9	9	1,070	4,601	3,140	1,222	1,123	

※医学部医学科の一般入試(前期日程)第1段階選抜合格者は195名[不合格者は23名]です。

※福祉健康科学部理学療法コースの一般入試(前期日程)第1段階選抜合格者は75名[不合格者は36名]です。

※医学部医学科の一般入試(前期日程)の合格者と入学者は追加合格の2名を含みます。

※福祉健康科学部社会福祉実践コースの一般入試(後期日程)の合格者と入学者は追加合格の1名を含みます。

平成28年度一般入試合格者の成績

【前期日程】

学 部	学科・コース	募集 人員	合格 者数	満点	最高点	最低点	平均点
教育学部	小学校教育コース	80	91	1200	934.30	762.80	803.93
	特別支援教育コース	3	3	1200			
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科	120	149	1000	791.80	604.40	641.11
医学部	医学科	65	66	1050	827.30	721.90	756.86
	看護学科	35	43	550	403.90	350.00	367.59
工学部	機械・エネルギーシステム工学科	53	57	1025	735.10	569.70	622.28
	電気電子工学科	52	58	1025	704.85	575.20	626.84
	知能情報システム工学科	44	53	1025	728.25	584.90	634.32
	応用化学科	38	45	1025	723.40	562.40	625.13
	福祉環境工学科 建築コース	35	38	1025	756.20	588.70	642.16
	福祉環境工学科 メカトロニクスコース	16	22	1025	698.80	566.25	610.89
福祉健康 科学部	理学療法コース	25	28	1300	986.60	841.60	890.82
	社会福祉実践コース	23	24	1300	936.00	727.80	842.73
	心理学コース	30	33	1300	991.40	782.20	850.50

【後期日程】

学 部	学科・コース	募集 人員	合格 者数	満点	最高点	最低点	平均点
教育学部	小学校教育コース	20	26	1100	831.70	743.00	767.63
	特別支援教育コース	2	3	1100			
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科	90	115	700	529.00	427.50	457.43
医学部	医学科	—	—	—	—	—	—
	看護学科	10	12	550	452.60	370.00	392.42
工学部	機械・エネルギーシステム工学科	15	18	1100	816.075	749.425	784.620
	電気電子工学科	14	16	1100	814.625	656.025	745.110
	知能情報システム工学科	11	13	1100	828.800	729.450	772.820
	応用化学科	10	16	1100	891.000	657.625	781.000
	福祉環境工学科 建築コース	10	11	1100	878.450	752.700	787.840
	福祉環境工学科 メカトロニクスコース	6	6	1100			708.730
福祉健康 科学部	理学療法コース	5	5	1300			
	社会福祉実践コース	6	6	1300			758.00
	心理学コース	5	6	1300			854.87

※追加合格者を除く。

※合格者が10人未満の場合は、平均点のみ公表。

※合格者が5人以下の場合は、個人情報保護のため非公表。

募集要項（願書）・大学案内の請求方法

募集要項（願書）・大学案内の請求方法は、「1. インターネットで請求」、「2. 大分大学に郵送で請求」、「3. 大分大学学生支援部入試課の窓口で受領」、「4. 電話（テレメール）で請求」の4つの方法がありますので、いずれかの方法で請求してください。



なお、「1. インターネットで請求」及び「4. 電話（テレメール）で請求」の資料の送付状況等についての問い合わせは、本学では対応できませんので、それぞれの問い合わせ先に電話をしてください。

募集要項等	公表 予定時期
一般入試学生募要項	12月上旬
推薦入試学生募集要項	10月上旬
経済学部AO入試学生募集要項	6月中旬
医学部医学科AO入試学生募集要項	6月中旬
理工学部AO入試学生募集要項	9月上旬
特別入試学生募集要項（帰国子女・社会人・私費外国人留学生） ※医学部看護学科社会人入試を除く	12月上旬
医学部看護学科社会人入試学生募集要項	6月下旬
大学案内（受験者向けパンフレット）	6月下旬

※医学部看護学科社会人入試学生募集要項については、「1. インターネットで請求」と「4. 電話（テレメール）で請求」での請求ができません。

1. インターネットで請求

次の2つのサービスのいずれかを利用して、募集要項及び大学案内を請求することができますので、パソコンから下記 URL にアクセスするか、携帯電話・スマートフォンで下記バーコードを読み取ってそれぞれのサイトにアクセスして請求をしてください。なお、請求方法の詳細は、各サイトの指示に従ってください。

	パソコンから請求	携帯電話・スマートフォンから請求
テレメール	http://telemail.jp	
	※資料請求番号は、65 ページを参照してください。 ※テレメールでの資料請求に関するお問い合わせ先 テレメールカスタマーセンター TEL 050-8601-0102 (9:30~18:00)	
モバっちょ	http://djcm-b.jp/oita-u3/	
	※モバっちょでの資料請求に関するお問い合わせ先 TEL 050-3540-5005 (平日 10:00~18:00)	

※本学ホームページ (<http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/05shiryo.html>) にアクセスし、各サービスのボタンをクリックして、各サイトに移動することもできます。

2. 大分大学に郵送で請求

募集要項を郵送する際に必要な郵便料金分（下記【郵便料金一覧】参照）の切手を貼り、申込者の郵便番号、住所、氏名を記入した角形2号の返信用封筒を、本学への往信用封筒に同封し、下記宛に郵送で請求してください。

往信用封筒の表には、「大学案内請求」、「一般入試学生募集要項請求」、「推薦入試学生募集要項請求」等の請求する資料名を正確に朱書きするとともに、連絡のつく電話番号を同封してください。

（資料名が不明確な場合や資料が配布開始前の場合のお問い合わせに利用します。）

※往信用封筒の大きさは、返信用封筒が入ればどのような大きさでもかまいません。

※郵送での請求の場合、原則として本学に返信用封筒が到着した翌日の発送となりますので、一般入試学生募集要項等を至急入手する必要がある場合は、インターネットによる請求を利用してください。

請求先住所	〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地 大分大学学生支援部入試課 宛
-------	--

【郵便料金一覧】

募集要項等	普通料金（円）	速達料金（円）
一般入試学生募集要項	400	780
一般入試学生募集要項＋大学案内	600	980
推薦入試学生募集要項	400	780
経済学部AO入試学生募集要項	250	530
医学部医学科AO入試学生募集要項	400	780
理工学部AO入試学生募集要項	250	530
特別入試学生募集要項（帰国子女・社会人・私費外国人留学生入試）	250	530
医学部看護学科社会人入試学生募集要項	250	530
大学案内（受験者向けパンフレット）	250	530

3. 大分大学学生支援部入試課の窓口で受領

学生支援部入試課の窓口で募集要項及び大学案内の配布を行っていますので、本学ホームページ又は電話で必要な資料が配付を開始しているか確認の上、お越しく下さい。

- （1）配布場所 大分大学学生支援部入試課（大分市大字旦野原 700 番地）
- （2）配布時間 8:30～17:15（土日、祝日、年末年始、夏季一斉休業期間を除く）
- （3）お問い合わせ先 電話 097-554-7519

4. 電話（テレメール）で請求

テレメールのサービスを利用して、電話で募集要項及び大学案内を請求することができます。

IP 電話 050-8601-0101

※請求方法は、音声ガイダンスに従ってください。

資料名	資料請求番号
一般入試学生募集要項	587852
推薦入試学生募集要項	587862
経済学部AO入試学生募集要項	547972
医学部医学科AO入試学生募集要項	547992
特別入試学生募集要項（帰国子女・社会人・私費外国人留学生入試）	564982
大学案内（受験者向けパンフレット）	587882

※テレメールでの資料請求に関するお問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター 電話 050-8601-0102（9:30～18:00）

問い合わせ先

大分大学学生支援部入試課

電話 097-554-7519

入学者選抜試験に関する問い合わせ先

大分大学学生支援部入試課

〒870-1192

おおいたしおおあざだんのはる
大分市大字巨野原700番地

TEL 097-554-7471

FAX 097-554-7472

ホームページ <http://www.oita-u.ac.jp/>